

650.23-N48ウ



1200500749800

50.23

148

南方園研究会
研究資料第十七輯

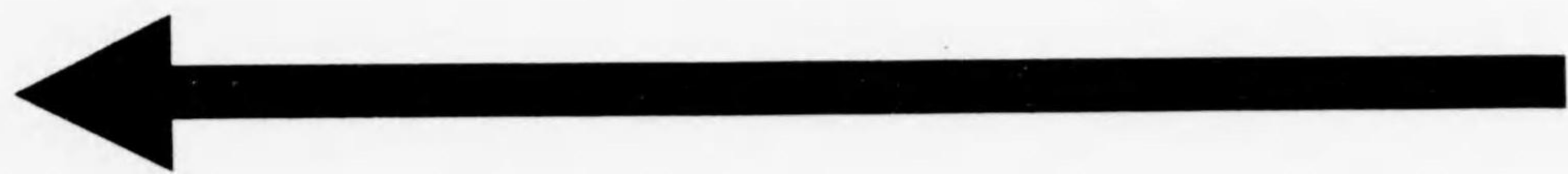
比律賓森林樹木の研究

同會編

(三)



始



933

420

昭和十八年五月十五日

研究資料第十七輯

【非賣品】

比律賓森林樹木の研究 (三)

發行所 南方圈研究會

650.23
N48

はしがき

比律賓群島には無慮數萬種の樹木があるが、その内の主要樹木について、一般的の知識を得ようとするのがこの研究である。研究の内容は、例へば『カカオ』は何科に屬する植物で、フリッピンでは『ツゴン』といひ、その木の高さ、直径、外皮及び軟皮の色、葉の形状とその大小、或は外皮の脱落状態とか、落葉の有様、生育せる土壤、乾季と雨季に於ける状態、邊材及び心材の色調、硬軟強弱、用途、分布地方、學名、地方名又は商業上に於ける地位等を種について、能ふだけ詳細に説明してあるのが、この研究資料である。

『研究資料』第十三輯から第十八輯（第十五輯、第十六輯を除き）までは一般主要樹木に就ての研究を發表し、その後は更に各種屬の箇々についての詳細な研究を發表する豫定である。

卷末に主要樹木の科、種類、公稱名及び一般商業用名稱、並に各群島名及び地方名の原語表が添付してある。

昭和十八年五月

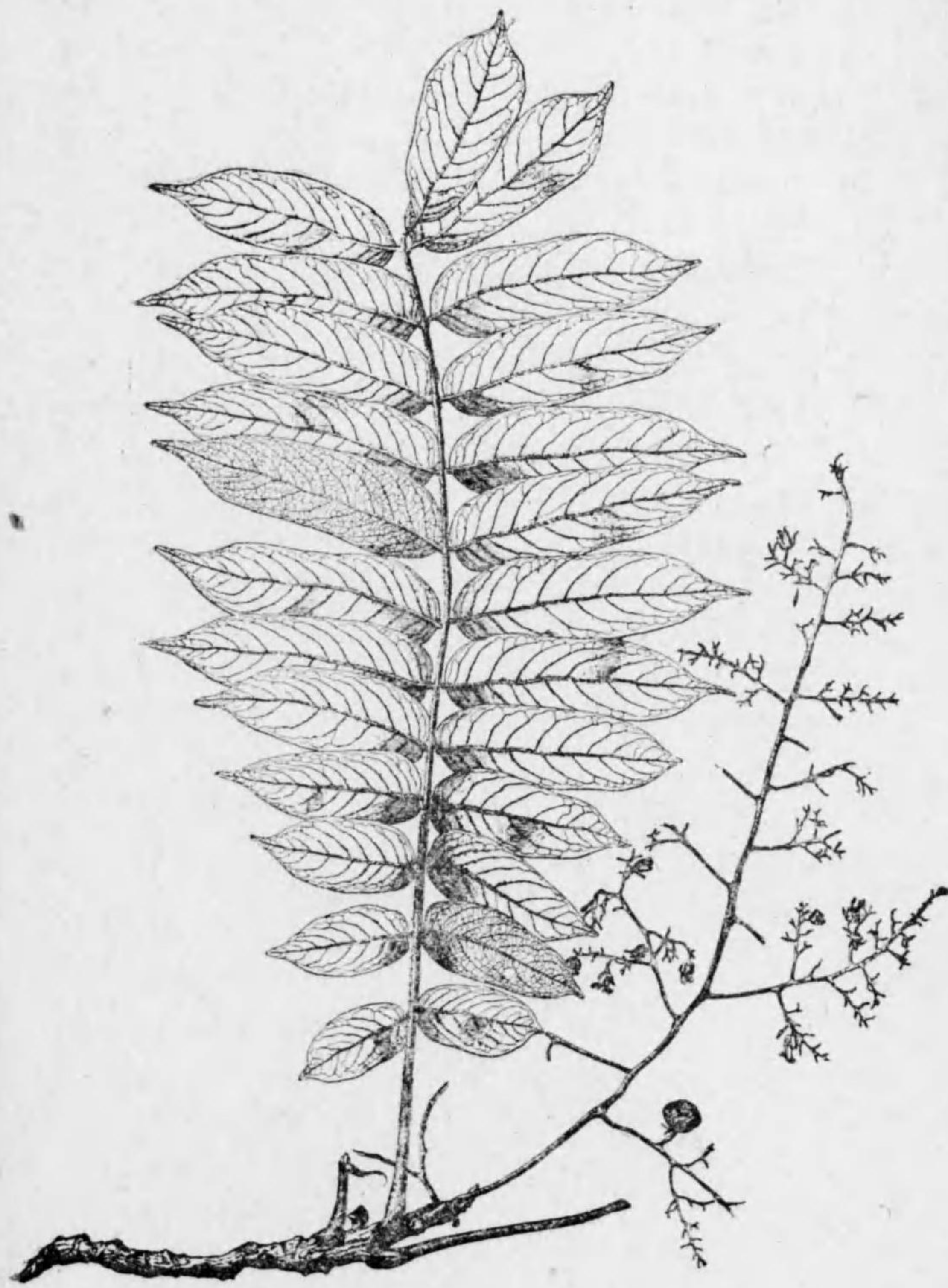
南方園研究會



Red lauan	(44)
Tanguil	(46)
Tiaong-lauan	(49)
Apitong 部類	(49)
Apitong	(50)
Panao	(52)
Hagachac	(54)
Guijo	(57)
Yacal 部類	(59)
Yacal	(60)
Guisoc	(63)
Black yacal	(65)
Malayacal	(66)
Guisoc-guisoc	(66)
Mangachapuy	(69)
Dalingdingan-isak	(71)
Narig	(72)
Karig	(73)
Yacal blanco	(73)
Palosapis 部類	(75)
Palosapis	(75)

目次

はしがき	
Buckthorn 又は Balacat 種屬	(1)
Balacat	(1)
Soap-berry 又は Alupag 種屬	(4)
Alupag	(4)
Malugay	(7)
Bladdernut 又は Anongo 種屬	(9)
Linden 又は Anilao 種屬	(10)
Mallow 又は Malubago 種屬	(10)
Cotton tree 又は Malabulak 種屬	(11)
Cacao 又は Dungon 種屬	(12)
Dungon	(12)
Dungon-late	(14)
Lumbayao	(16)
Taluto	(19)
Catmon 種屬	(22)
Catmon	(22)
Tea 又は Bikag 種屬	(23)
Mangosteen 又は Palo-maria 種屬	(24)
Palo-maria	(24)
Dipterocarp 又は Lauan 種屬	(27)
Lauan 部類	(29)
White lauan	(29)
Almon-lauan	(32)
Bagtican-lauan	(35)
Malaanonang-lauan	(38)
Kalunti-lauan	(39)
Mangasinoro-lauan	(40)
Mayapis-lauan	(41)



(挿圖二十六) Lamio (*Dracontomelum cumingianum*)

(第十四輯参照) 右上は花集、右下は果實

比律賓森林樹木の研究 (三)

くろうめもどき又はバラカット科植物 (*Buckhorn, Balacat*)

(*Rhamnaceae*) くろうめもどき科

葉は互生で(時としては對生)三筋の顯著な葉脈がある。

バラカット



樹高三十米乃至三十五米、直径一米乃至一米以上で、樹幹は通直、整形、二十米に達す。板根が著しく、樹冠は開いて乾季の短期間に全部又は八九割まで落葉する陽樹である。ラウアン・アピトン (*Lauan-apitong*) 林、ヤカル・ラウアン (*Yacal-lauan*) 林又はモラベ林中に散在し、河邊低地の濕潤地にも生育する。

樹皮は灰褐色で隆起線がある。稚樹皮には鋭い刺が附着し、長ずれば板根の間に太く短い大刺となつて残存する。韌皮は褐赤色で、表皮の溝の直下に當る部分は白色の縦線となる。葉は單葉、互生、

概して平滑だが、嫩葉は時として毛に蔽はる。長さ七種乃至十五種、巾四種乃至九種である。
材はクリーム白色乃至淡褐色、輕軟又は重さ中庸で保存期は短い。心材は邊材よりも稍暗色で、大木になれば赤色となり、木理は通直であるが粗い。

用途、一時的及び輕建築物、安家具、箱。

分布、ルソン島（イロコス・ノルテ、イロコス・スル、カガヤン、ヌエバ・エシハ、パンガシナン、サンパレス、バタアン、リサール、タヤバス、カマリネス）、マスバテ島、ミンドロ島、レイテ島、ミンダナオ島（スリガオ、サンボアング、ダバオ）、パラワン島。

學名、ジジフス・ゾヌラタス (*Zizyphus zonulatus*) 葉に小毛のある種類が別にあり、異種と見られてゐるが、商業上では同じ『バラカット』の名が用ひられて居る。

地方名、アグック (Aguk) (カガヤン州)、アリガメン (Aligamen) (イロカノ語)、ビガア (Bigaa) (タガログ語、ビサヤ語)、ダガア (Dagaa) (パラワン島)、ダンリク (Danlik) (タヤバス州)、チリアン (Dianin) (イロカノ語)、ツブラック (Duplak) (パンガシナン州)、リガア (Ligaa) (タガログ語、ビサヤ語)、ルマングド (Lumangud) (レイテ島)、マグランカ (Maglanka) (パラワン島)。

リガア (*Zizyphus trinervia*)



(挿圖二十七) Balacat (*Zizyphus zonulatus*)
右下は果實

再生林にありふれた矮樹で、幹の周囲には刺、又は刺状の樹瘻（木の疣）が環状列をなして附着して居る。

無患子科又はアルパグ科植物 (Soapberry, Alupag)
(Sapindaceae) むくろじ科

葉は互生の複葉で、樹幹は概して不整形、樹皮は平滑である。矮樹種は多いが、用材として知られてゐるのは二種のみである。

アルパグ

樹高中庸で例外的には二十五米に達するが概してこれより低い。直径八十糎。樹幹は十米乃至十二米、横断面は不整形でいびつである。樹冠は全樹高の約半ばを占め、横に稍廣く開放して居る。フィリッピン全島に分布し、特にモラベ林及び二羽柿科林の乾燥地帯に生育する陽樹である。

樹皮は厚さ三糎乃至五糎、灰色で渦形に脱落し、韌皮は赤褐色、濃淡交互の輪がある。葉は互生の複葉で、三對乃至四對の葉片は裏面が白色、長さ七糎乃至十六糎、巾二糎乃至六糎である。

邊材は極く色が淡く心材は暗赤色又は暗褐色を呈する。甚だしく堅硬で重い。木理は通直で美しく



(挿圖二十八) Alupag (Euphoria cinerea)
右上は花集、左下は果實

加工し難い。

用途、家屋建築（床張り、桷、柱）、工具の持手、車輛、船舶部分品、杣、木齒輪、水牛の軛。

分布、ルソン島（カガヤン、イロコス・ノルテ、イロコス・スル、ベングエット、パンガシナン、バレル、パンパンガ、サンバレス、バタアン、リサール、バタンガス、タヤバス、カマリネス）、マリニンツケ島、マスバテ島、ミンドロ島、サマル島、レイテ島、ミンダナオ島（サンボアング、コタバト、ダバオ）。

學名、ユーフォルシア・シネレア (*Euphorbia cinerea*)

地名、アルバイ (Albay) (タガログ語、サンバレス州)、アパロン (Apalung) (カガヤン州)、バギレス (Bagles) (パンガシナン州)、バイト (Bait) (タヤバス州)、バカラオ (Bakalao) (イロカノ語)、ボリクス (Bolik) (サンボアング地方)、ブアヌバイ (Buambai) (コタバト地方)、ブララ (Balala) (ピコル語)、ダギンチガン (Dagindigan) (サマル島)、ハルバダ (Halupog) (タガログ語)、ヒムラロアン (Himalaang) (パンパンガ州)、カンドンギサル (Kandongisal) (マスバテ島)、ラシラサン (Laslasan) (イロカノ語)、マラレサ (Malaresa) (パンパンガ州)、マルトン (Malutong) (カガヤン州)、モリン (Moling) (パンガシナン州)、パミト (Pamito) (マスバテ島)、ウラヤン (Ulayan) (レイテ島)、ウサオ (Usao) (レイテ島)。アルバグはタガログ語の名稱である。

マルガイ (Malugay)

樹高二十五米乃至三十五米、直径九十種乃至一米で、樹幹は十八米乃至二十二米、稍溝彫があつて時には軽く彎曲して居る。樹冠は全樹高の約三分の一を占め半ば開く。樹蔭地では幾分弱い。二羽柿科林の乾燥地に散在し、ミンドロ島には最もよく繁茂して居る。ラウアン・ハガチャク林にも往々生育して居るのを見る。

樹皮は厚さ六耗乃至八耗、環状片となつて脱落する。古い樹皮は紫色を帯びた赤褐色であるが、新樹皮は褐色或はカーキ色である。靱皮は赤褐色で濃淡交互の輪がある。一年を通じて或る季節には邊材と樹皮から赤色樹液を少量分泌する。間隔狭く互生する複葉は小枝の先に群集し、五對乃至十對の葉片は稍鋸齒状で長さ八種乃至二十四種、巾三種五耗乃至八種五耗、基底の葉片は退化して苞となつてゐる。

邊材はクリーム赤色、心材は淡赤色、堅重中庸で強靱、通直な木理は美しい。

用途、一般建築、箆筒、室内造作、小ボートの肋材及び船體外板、工具の持手。
分布、用材となるのは主としてミンドロ島産のものであるが、その他左の地方よりも産出する。
ルソン島（カガヤン、イロコス・ノルテ、バタアン、ラグナ、カマリネス、アルバイ）、カミギン島、マスバテ



(挿圖三十九) Malugay (*Pometia pinnata*)

右上は花集、右下は果實、左下は花

島、チカオ島、サマル島、レイテ島、ネグロス島、ミンダナオ島(サンボアング、アグサン、ラナオ)、バラワン島及びその他の諸州。

學名、ポメチア・ピナタ (*Pometia pinnata*)。

地方名、アグバンガ (*Agupanga*) (ミンドロ島)、アラウイハウ (*Alauhau*) (サマル島)、バランバン (*Balanbanan*) (イロカノ語)、バンタンガリ (*Bantangali*) (アグサン州)、イブ (*ibu*) (ネグロス島)、カバ (*Balambanan*) (イロカノ語)、バンタンガリ (*Bantangali*) (アグサン州)、イブ (*ibu*) (ネグロス島)、カバ (*Balanbanan*) (イロカノ語)、カルンヤン (*Karunyan*) (ミンギロ島)、コギタ (*Kogik*) (アルバイ州)、カバト (*Kabakabat*) (イロカノ語)、マンサナブ (*Mansanab*) (ネグロス島)、キア・キア (*Quia-quia or Kia-kia*) (マダロ (*Madalo*) (カガヤン州)、マンサナブ (*Mansanab*) (ネグロス島)、キア・キア (*Quia-quia or Kia-kia*) (レイテ島、サマル島)、シダオ (*Sidao*) (アンボス・カマリネス州及び諸島)、タクガン (*Takugan*) (マスバテ島)、チガウイ (*Tigawi*) (チカオ島、アンボス・カマリネス州、マスバテ島)、ツゴラン (*Tugoran*) (マスバテ島)、『マルガイ』とはミンドロ島に於ける通稱である。

無患子科の矮樹種の主なるものにはアラシン (*Alsin*) (*Arytera Titoralis*)、アラハン (*Alahan*) (*Guiaou perrottetii*)、ウアス (*Uas*) (*Harpullia arborea*) 及びリツチ・フィリビネンシス (*Litchi philippinensis*) がある。リツチ・フィリビネンシスの材は頗るアルバグに酷似して居る。

ブラッター・ナット又はアノンゴ科植物 (*Bladdernut, Anongo*) (*Staphyleaceae*) みそばづづき科

此の科の樹種はアノンゴ (*Turpinia pomifera*) 一種のみで、アノンゴは二羽柿科林の下生えをなす中庸の樹木で、葉は對生の複葉、材は輕軟、家庭器具として用途がある。

菩提樹科又はアニラオ科植物 (Linden, Anilao)

(*Tiliaceae*) しなのき科

菩提樹科植物は矮小又は樹高中庸で、葉は單葉、互生をなす。材は地方的に薪、輕建築物として用ふ。

アニラオ (*Anilao*) (*Columbia serratifolia*) は成長の早い矮樹で普通再生林地に生育する。樹皮は綱として用ふ。

ススンビタ (*Susunbik*) 又はカムリン (*Kanuling*) (*Grewia sylvocarpa*) 及びグレウィア (*Grewia*)

屬の他の樹種は二羽柿科林に下生えとして散在する矮小又は中庸の樹木である。

バロボ (*Balobo*) (*Diplodiscus paniculatus*) は二羽柿科林にかなり多い矮小又は中庸の樹木で、材は灰赤褐色或は淡赤褐色、堅重中庸で用途は地方的である。

錦葵科又はマルバゴ科植物 (Mallow, Malubago)

(*Malvaceae*) 錦葵科

此の科の樹種は商業上重要なものは少い。葉は互生の單葉で、通常大葉脈は掌狀をなす。(少くとも此處に記する樹種はちうである)。

ラムタン (*Lanutan*) (*Bombacidenton vidaliumm*) の材は重くして稍紫色である。車輛の心棒、ギター、マンドリンの背、側面などに用ふ。

マルムゴ (*Malubago*) (*Hibiscus niliicus*) は砂の多い海岸に生育し、材は紫褐色で頗る輕い。漁業網の浮標として用ふ。樹皮は綱、織物の用途がある。

バナロ (*Banalo*) 又はポルチア・ツリー (*Portia-tree*) (*Thespesia populnea*) は砂地の海邊に生育する中庸の樹木で、心材は堅硬、稍重くして暗赤色。樂器の頸、背、側面に用ふ。セイシルズ (*Seychelles*) 島 (アフリカ州東方の英領群島) のローズ・ウッド (*Rosewood*) はこの樹木である。

棉の木科又はマラブラク科植物 (Cotton-tree, Malabulak)

(*Bombacaceae*) ばんや科

此の科の葉は互生の掌狀複葉である。

マラブラク (*Bombax malabaricum*)

巨木で材は色淡く軟質、乾燥地に散在し、短期間完全に落葉する。カボック及びドルドル (Doldol) 又は棉の木 (*Ceiba pentandra*) は棉花採集のためフィリッピン全島にて栽培してゐる。電信、電話柱として廣く用ひ、伐採直後の電柱は根を出して樹木となることがある。材は軟質で色淡く、用途は狭し。

カカオ科又はツンゴン科植物 (*Cacao, Dungon*)
(*Sterculiaceae*) 梧桐科

ルンバヤオ以外の樹種は互生の單葉を有し、多様な材を提供する。梧桐科の樹種は多いが用材として市場に出るものは少し。

ツンゴン

樹高三十米乃至三十五米、直径一米乃至それ以上で、樹幹は整形或は不整形である。例外的には十八米に達するが概して短い。著しい板根がある。樹冠は全樹高の三分の一乃至二分の一を占めて開放して居る。モラベ林、或は二羽柿科林の乾燥地に散在する陽樹である。

樹皮は厚さ六耗乃至一耗、灰色乃至肉桂褐色で焦色の小隆起があり、不整形な小片となつて脱落す



(挿圖三十) Dungon (*Tarrhetia sylvatica*)

右下は果實

る。靱皮は淡紅色、美しい淡色の放射組織がある。葉は單葉、互生で長さ七糎乃至二十糎、巾三糎乃至九糎、裏面が銀白色である。

邊材は稍淡紅色、心材はチョコレート褐色。甚だ堅重で強靱、挽き切り難い。木理は撚纏してゐるが美しい。古い節及び心材の隙間には往々白色、石状の沈澱物がある。

用途、耐久性を必要とする建築物、特に海中の杵として重寶。その他、海軍建造物（錨、ボートの肋材、龍骨、起重機）、鐵道枕木、電信柱、車輪、木齒車、橋梁、家屋建築（柱、梁）、ヘンプ壓搾器。

分布、ルソン島（イロコス・ノルテ、イロコス・スル、パンガシナン、タルラツク、ヌエバ・エシハ、ブラカン、サンバレス、バタアン、リサール、ラグナ、バタンガス、タヤバス、カマリネス、アルバイ）、マスバテ島、マリ

ンヅケ島、ミンドロ島。

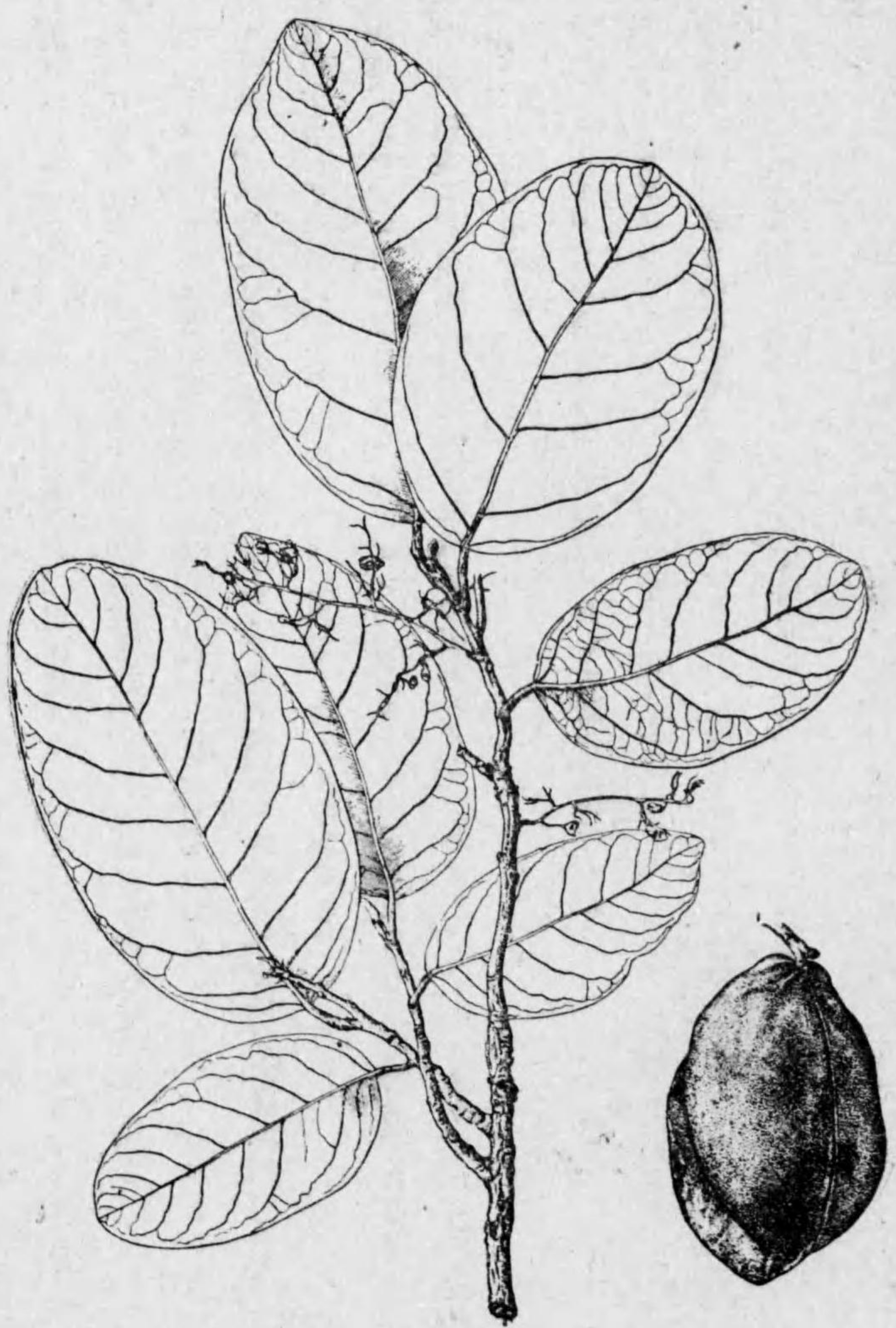
學名、タリエチア・シルバチカ (*Tarrictia sylvatica*)。

地方名、マラルンゴン (Malarrungon) (タガログ語)、バルメガボイ (Palmeagapoy) (イロカノ語)、パロガビ

タ (Palogapig) (イロカノ語)、パロナピン (Palonapin) (イロカノ語)、パロナボイ (Palonapoy) (サンバレス州)

ツンロン・ラテ (Dungon-late)

樹高二十米、直径八十糎乃至九十糎で、樹幹は不整形、大きな板根があり、海邊又はマングローブ



(挿圖三十一) Dungon-late (*Heritiera littoralis*)

右下は果實

の上邊のみに生育する陽樹である。

樹皮は厚さ五耗乃至八耗、灰色で平滑、老樹皮は長方形に分裂する。韌皮は焦赤色で繊維質。互生の單葉は長さ九耗乃至二十五耗、巾四耗乃至十二耗で、裏面は銀白色を呈して居る。

材は種々な點でツンゴンに酷似し、判別し難い。ツンゴンは樹木が大きく、潮流より少し離れた丘陵に生育し、果實には羽がある。ツンゴン・ラテの邊材は大で、又その巨大な木質の果實は、顯著な龍骨辨を有して浮流に適し、潮流中或は水際近くにあるのを見る。

用途はツンゴンに略ぼ等しく、ツンゴンの代用として屢々用ひらる。兩者共耐久力強く、樹液がないから、船食蟲、白蟻、菌類の侵害に抵抗力がある。その他ツンゴン・ラテはカヌー(舷外浮材ノ支柱)、薪、木炭として用ふ。

分布、フィリッピン全島を通じて潮流に面する諸州に生育する。

學名、ヘリチエラ・リットラリス (*Heritiera littoralis*)。

地方名、ツンゴンのない地方では「ツンゴン」と稱せらるることがある。その他パロナピン (Palom-pin) 及びその類似語並びにマガヤオ (Magayao) (カガヤン州) の名稱がある。

ルンバヤオ (Lumbayao)



(挿圖三十二) Lumbayao (*Tarrietia javanica*)

中央は花集、右下は果實

樹高四十米乃至五十米、直徑八十糎乃至一米二十糎に達し、通直、整形な樹幹は二十米乃至二十五米に及ぶ。板根は顯著、樹冠は開いて乾季に繁茂が稍疎となるが常緑樹である。樹蔭地に幾分堪へ南部諸島にのみ分布し、山背及び乾燥傾斜地でヤカルと共に生育する。

樹皮は厚さ五糎乃至七糎、稚樹の皮は灰色で斑點があり、老樹の皮は淡灰色で剝離した部分は褐色である。脱落樹皮片は多少整ふた長方形、正方形、偏菱形である。韌皮は赤褐色を呈し、葉は互生の掌狀複葉で、三對乃至七對の葉片は長さ六糎乃至十六糎、巾三糎乃至七糎、平滑。果實には羽がある。

邊材は淡赤色、心材に移るに従ひ徐々に赤色、赤褐色となる。材は軟質又は堅重中庸で粗糙である。木理は通直、保存期がかなり長く加工し易い。

用途、家屋建築（仕切、側面、扉、室内造作）、家具、獨木舟、箱。

アメリカでフィリッピン・マホガニーとして販賣される樹種の一つである。

分布、ミンダナオ島（サンボアング、コタバト）及びバシラン島に産す。

學名、タリエチア・ジャバニカ (*Tarictia javanica*)。

名稱はモロ語による「ルンバヤオ」のみ流通する。

タリエチア・リエデリアナ (*Tarictia riediana*) は全體的にルンバヤオに酷似し、ミンダナオ島の

ラナオ地方に産する。

タルト (Taluto)

樹高四十五米乃至五十米、直徑の大なる巨木で、整形、通直な樹幹は二十五米乃至三十米に達す。

板根はなく、地上八米乃至八米以上に及ぶ地上根がある。樹冠は開いて、乾季の短期間に落葉する。

乾燥土壤を好み、アピトン・ラウアン林やヤカル・ラウアン林及びモラベ林中に存在する。

樹皮は厚さ二糎五糎乃至三糎、褐色で脆く、縦の短い龜裂がある以外は平滑である。

韌皮は鮮明な赤色で、放射線狀の白線がある。葉は單葉、互生、ハート形をなす。五本の顯著な葉脈が通り、裏面には小毛がある。長さ十糎乃至十四糎、巾九糎乃至十三糎。

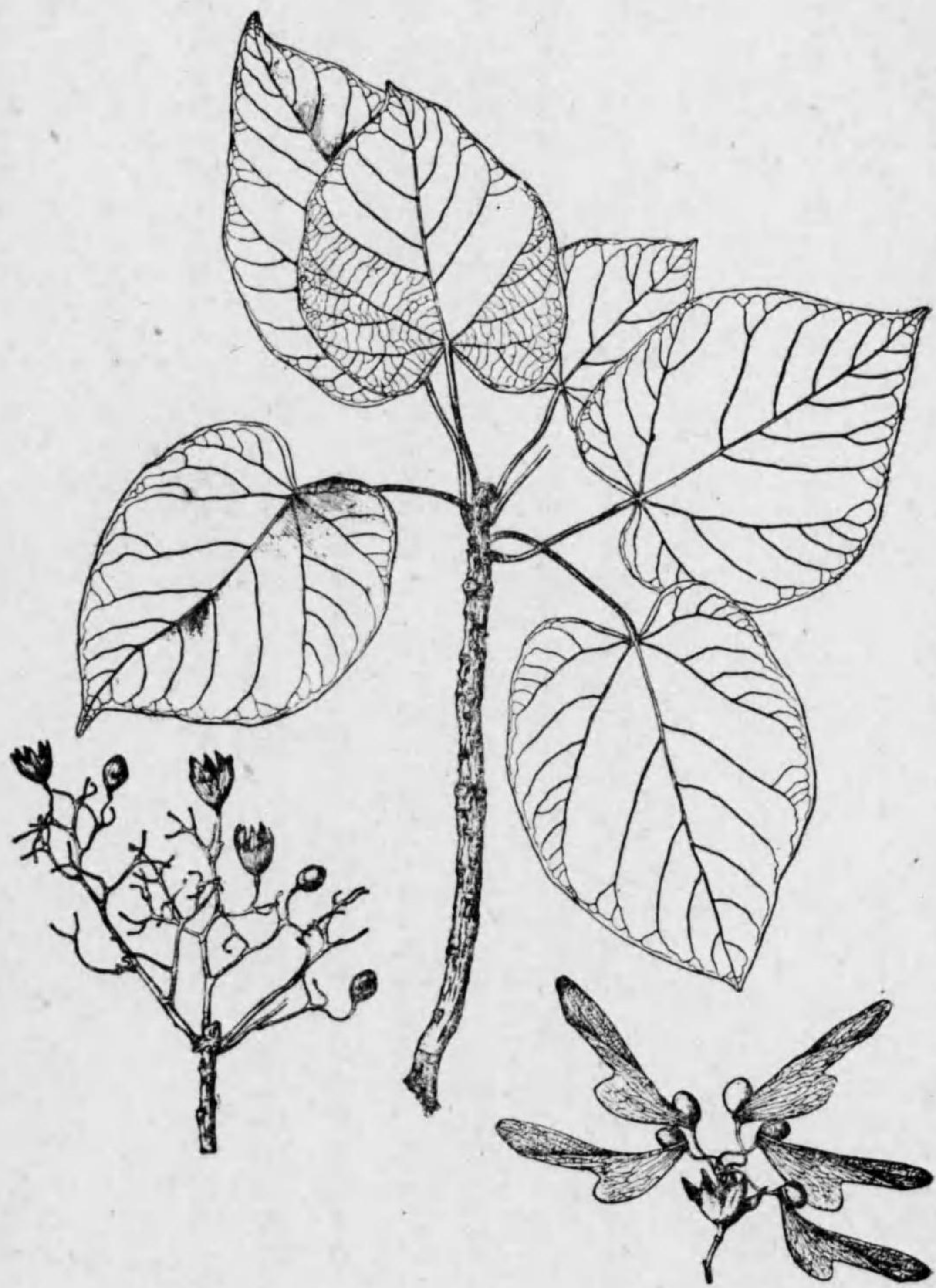
邊材、心材共にクリーム白色、輕軟で樹脂線が著しい。マッチの軸木、箱、筏の浮木に用ひらる。

分布、フィリッピン全島に生育するが特に左の地方に多い。

ルソン島（カガヤン、パンパンガ、ヌエバ・エシハ、リサール、バタアン、ラグナ、タヤバス、カマリネス）、ミンドロ島、レイテ島、ミンダナオ島（スリガオ、サンボアング）、バラワン島。

學名、プテロシンピヤム・チンクトリヤム (*Pterocymbium tinctorium*)。

地方名、バンガット (Bangut) (サンパレス州)、ファンギンハン (Fanginhan) (リサール州)、フリガ



(挿圖三十三) Taluto (*Pterocymbium tinctorium*)

左下は花集、右下は果實

ノ (Huligano) (ヌエバ・エシハ州)、リブツク (Libtuk) (カガヤン州)、マラサブサブ (Malasapsap) (ミン
 バンガ州)、タクン (Takung) (スリガ州)。

『タルト』及びその類似語『タオト (taoto)』及び『テルト (teluto)』はタガログ語の名稱である。
 その他梧桐科には左の如き樹種がある。

タナグ (tanag) 又は タロクトク (taloktok) (*Klinhojia hospita*) は開豁地に生育し、材は淡黄色で
 用途は狭い。樹皮は綱として用ふ。

カルンバンゲ (*Kalumpang*) (*Sterculia foetida*)

七對乃至九對の掌狀複葉を有し、材は灰色、軟質で用途は狭い。種子から貴重な油を採る爲に栽培
 する。

一様にバヨク (bayok) と稱する *Pterospermum* (*Pterospermum*) 屬の樹種は矮小又は中庸の樹木
 で、二羽柿科林及びモラベ林中に存在する。材は軽く、硬度中庸で、用途は地方的である。

マガリパケ (*Magalipak*) (*Sterculia blancoi*)

モラベ林にて目立つ樹木で、時としては二羽柿科林にも生育する。材は軟質で、昆蟲、菌類の侵害

を受け易い。

カットモン科植物 (Catmon) (Dilleniaceae) さるなし科

此の科の森林樹にはデレニア (*Dillenia*) 属の一種があるのみである。葉は単葉、互生、材には著しく燃纏した樹脂線がある。

カットモン

矮小又は中庸な樹木で、樹幹は短く、樹冠の繁茂は密である、川邊或は濕潤な傾斜地や山背に生育する。

樹皮は厚さ六耗乃至一耗、灰色及び褐色の斑点があり、褐色の部分は樹皮の剝離によつて生じた浅い窪みである。韌皮は淡赤褐色を呈し、互生の單葉は平滑で、縁は粗い鋸齒状をなす。長さ十三耗乃至十八耗、巾五耗乃至八耗。嫩葉の葉柄には羽がある。

邊材は淡赤色、心材は暗赤色乃至暗褐色、堅重で脆く、木理は燃纏して粗い。水浸液は淡赤色で樹脂線は巾廣くして彎曲す。導管には白色の沈澱物がある。

材は家具、及び建築一般に用ふ。

フィリッピン全島に分布す。

學名、デレニア・フィリッピンシス (*Dillenia philippinensis*)。

カットモン・カラバオ (*Catmon carabao*) (*Dillenia speciosa*) はカットモンより葉が大きい。兩者共白

い花を開く。マラカットモン (*Malacatmon*) (*Dillenia luzonensis*) は黄色の花を開く巨木である。

ジレニア (*Dillenia*) 属の樹種には左の如き地方名がある。

アラト (*Alato*) (北部ルソン島)・アナガオ (*Anagao*) (スリガオ州)・カロカットモン (*Calocatmon*) (タヤ

バス州)・マガラバラリ (*Magalabalali*) (北部ルソン島)・マガトリ (*Magatli*) (カガヤン州)・バラリ (*Palali*)

(ピサヤ語、ピコル語、北部ルソン島)・パマラリアン (*Pamalalian*) (パンガシナン州)。

茶の木科又はピカグ科植物 (Tea, Bikag)

(Theaceae) 山茶科

タンギル・オーク (*Tanguile-oak*) 林及び濕地林に生育する灌木で、用材としての重要性はなし。

ピカグ (*Bikag*) (*Ternstroemia toquim*) の樹皮よりは魚類の毒殺劑を製する。

アチナンドラ・ルソニカ (*Adinandra luzonica*)・ゴルドニア・ルソニカ (*Gordonia luzonica*)・テア・モ

ンタナ (*Thea montana*) 及びユルヤ屬樹種 (*Eurya spp*) は通常高山地帯に生育する。

マンゴステン科又はパロ・マリア科植物 (Mangosteen,
Palo-maria) (*Guttifera*) おとぎりそう科

此の科の樹木は樹皮に黄色の樹液を含有し、對生の葉には密な美しい葉脈があるから容易に識別することが出来る。

パロ・マリア

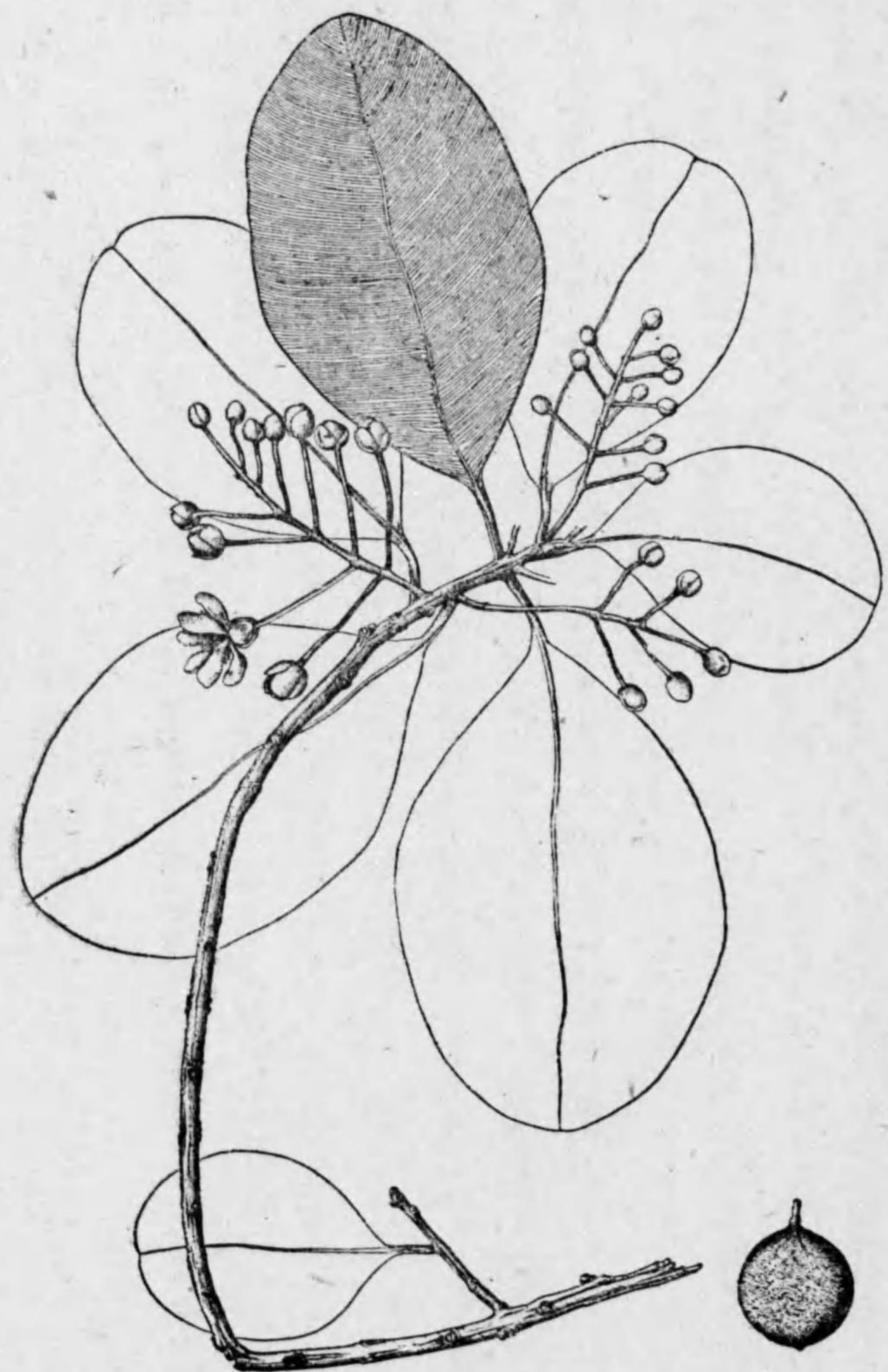
樹高中庸で角ばつた樹幹は短く、樹冠は擴がつて繁茂が稍密である。フィリッピン全島の砂の多い濱に生育する。

樹皮は厚さ一種二耗乃至二種で黄褐色。隆起線に沿ふて縦に明瞭に割れる傾向があり、更に横の龜裂に依つて不整の長方形となつて脱落する。靱皮は淡紅色或は稍黄色で暗色の放射組織がある。樹皮を傷つけば黄色の粘い樹液を分泌する。有名なパロ・マリア油はこの種子から製出される。

對生の單葉は黄綠色で、中肋は黄色。長さ九種乃至十六種、巾六種五耗乃至十種に及ぶ。

材は赤褐色、堅硬で重さは中庸、挽き易いが木理が燃纏して居るから仕上げが困難である。

用途、美麗家具、挽物細工、一般建築、家屋建築 (床張り、室内造作、柱)、橋梁、海軍建造物 (マス



(挿圖三十四) Palo-maria (*Calophyllum inophyllum*)
上部は花集、右下は果實

ト、圓材、甲板、肋材、橈、帆柱、船首、斜橋、龍骨、車輛(轂、心棒)。

分布、海邊諸州には殆んど全て生育するが特に左の地方は有名である。

ルソン島(カガヤン、サンバレス、バタアン、リサール、タヤバス、カマリネス、アルバイ)、バラニ島、バタネス島、カミギン島、ポリロ島、マスバテ島、ブリアス島、ミンドロ島、クリオン島、セブ島、ボホル島、ネグロス島、ミンダナオ島(サンボアング、ダバオ)、バシラン島、パラワン島、バラバク島。

學名、カロフィラム・イノフィラム (*Calophyllum inophyllum*)。

地方名、バンサンガル(Bansangal)(イロカノ語)、ビロイ(Biroi)(イロカノ語)、ビタンゴル(Bitangol)(ビサヤ語)、ビタオグ(Bitaog)(イロカノ語、ビサヤ語、バンパンガ州、タガログ語)、ビタオイ(Bitaoi)(サンバレス州、バンパンガ州、イロカノ語、ビサヤ語)、ダンカラシ(Dankalan)(タガログ語)、パミットラテン(Panitatan)(イロカノ語)、パミタオガン(Pamitaogan)及びその類似語(ビサヤ語、イロカノ語)、サルマエン(Zarumayen)(イロカノ語)。

『バロ・マリア』はスペイン語の名稱で、ボルネオでは『ボルネオ・マホガニー』と稱せられて居る。

二羽柿科林にはカロフラム(*Calophyllum*)屬の樹種がこの他に多く、これ等は大抵共通な名稱を有し、バロ・マリアと稱して通用することがある。但しこの類の樹種は概して矮小である。尤もビタンホル(Bitanhol)又はバロ・マリア・デル・モンテ(Palo-maria del monte)(*Calophyllum blancoi*)のみは

樹高の卓越して居る場合がある。バロ・マリアに比すれば、これ等の樹種は葉が狭く(中二種乃至六種)海邊に生育せぬ差異がある。カロフィラム屬の樹種は全て樹皮が明白な黄色であるから容易に判別することが出来る。

ガルシニア(*Garcinia*)屬の樹種は矮小又は中庸で、二羽柿科林に散在し、材は地方的に用ひらる。ブノグ(Bunog)(*Garcinia benlani*)の材は赤褐色、堅硬で保存期が長い。パラワン島に産し、同島のみで用ひらる。

ビヌカオ(Binukao)(*Garcinia binucao*)及びその他ガルシニア屬の野生樹種の果實は食用となる。

マンゴステン(*Garcinia mangostana*)は果實食用の爲、南部諸島にて栽培される。

グエン・グエン(Guyung-guyung)(*Cratoxylum celebicum*)並びにその他クラトックシロン(*Cratoxylum*)屬の樹種(これ等の樹種は大抵共通の名稱がある)は矮小又は中庸の樹木で、稍赤色の材は地方的のみ用ひらる。

カリワス(Kaliwas)(*Kayea paniculata*)は水邊に散在する矮樹である。

二羽柿科又はラウアン科植物 (Dipterocarpaceae, Lauan)

(*Dipterocarpaceae*) リンゴのツバキ科

二羽柿科植物はフィリッピンで最も顕著な樹種で、産出高が首位を占むるのみならず、樹種の數に於ても他を壓し、處女林の苗から巨木に到るまで、二羽柿科に屬さざるものは殆んどない。公認された樹種は約四十種であるが、實際には五十種以上もあらう。その中約二十二種は用材として市場に出で壓倒的地位を占めて居る。

その特徴を擧ぐれば、葉は單葉、互生で平滑又は小毛がある。材は著しく油脂性で（バチカ（*Vatica*）屬のみは油脂性が少い）、木油と稱するこの油脂は空氣に接觸すれば凝固して樹脂となる。樹脂の沈澱物は不完全な輪をなして、肉眼では恰も年輪の如き觀があるが、成長回期を指示することはない。樹皮及び邊材を傷つければ油脂は多少自由に流出し、直ちに凝固して蠟燭の如き物質となる。油脂性の樹種は二羽柿科以外にもあるが、二羽柿科程明白な木油を有するものは他にない。唯ピリ（*Pili*）種屬のみ樹脂の性質が二羽柿科に酷似して居る。ピリ種屬の樹脂は樹皮内部（内皮）に存し、葉が複葉であるから、二羽柿科と容易に識別することが出来る。二羽柿科の果實は球形又は卵圓形で、上端又は下端に二筋又はそれ以上の縦脈ある羽がある。

樹高は概して高く、四十米乃至五十米に達し、又五十米以上成長するものも多い。樹幹は通直、整形で、枝下が二十米乃至三十米に及ぶ。チプレロカルプス屬以外の樹種には大抵著しい板根がある。

用材樹種を分類すれば、ラウアン（*Lauan*）類、アピトン（*apitong*）類、ヤカル（*Yacal*）類、パロサピス（*palosapis*）類の四種がある。

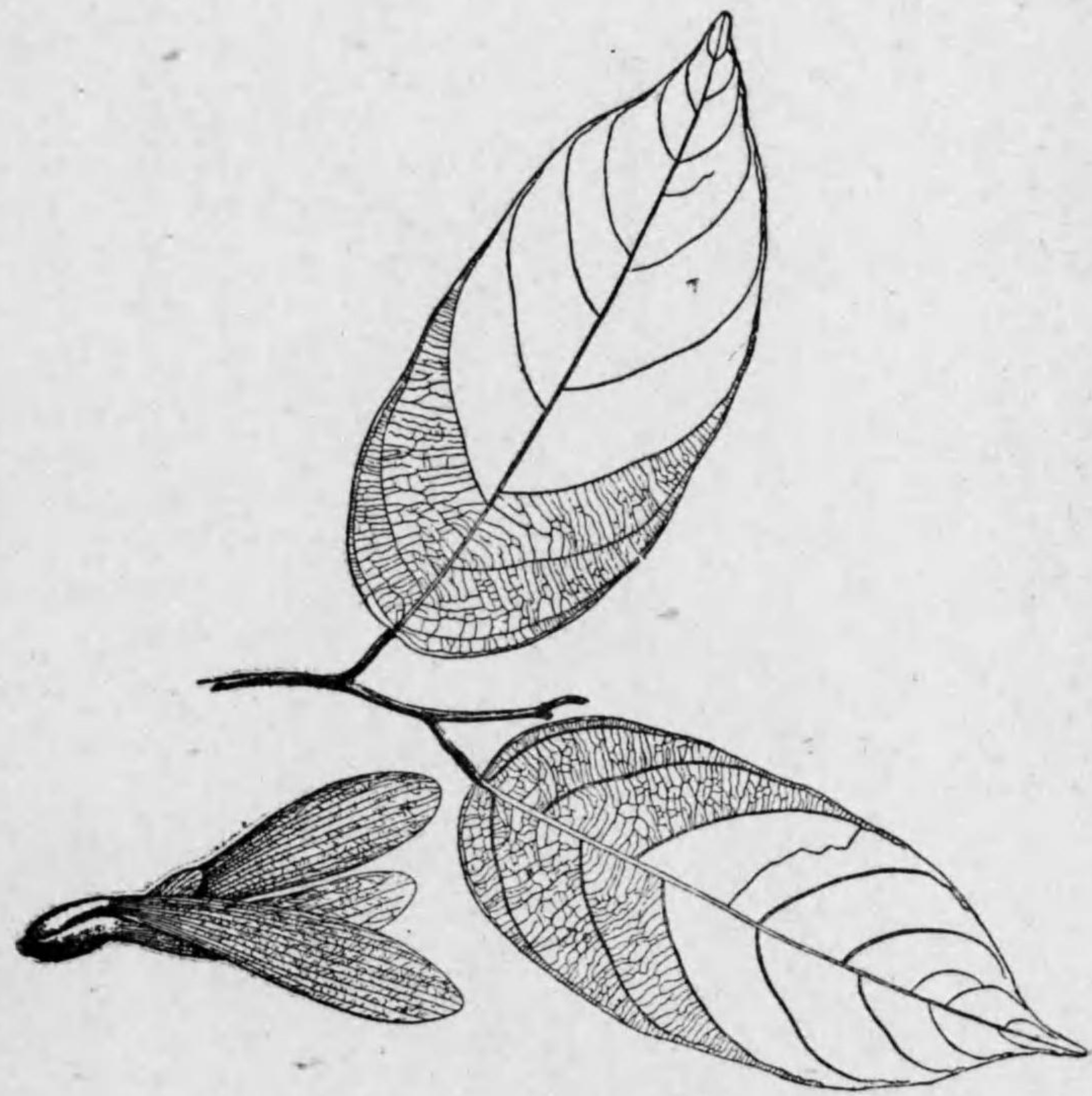
ラウアン類

ラウアン類の主要樹種を擧ぐれば、アルモン・ラウアン（*almon Lauan*）、バグチカン・ラウアン（*bagti-kan Lauan*）、カルンチ・ラウアン（*kalunti Lauan*）、マラアノナン・ラウアン（*malaanonang Lauan*）、マンガシノロ・ラウアン（*mangasinoro Lauan*）、マヤピス・ラウアン（*mayapis Lauan*）、レッド・ラウアン（*red Lauan*）、タンギル・ラウアン（*tangile Lauan*）、ホワイト・ラウアン（*white Lauan*）がある。

ホワイト・ラウアン（*White Lauan*）

樹高四十米乃至四十五米、直径一米五十糎で、樹幹は整形、二十五米乃至三十米に達す。老樹には著しい板根がある。樹冠は繁茂がかなり密で、不整形のドーム型をして居る。陰地植物であるが、苗は半ば開豁の地が良い。

全島に分布し、垂直分布は海拔七百米までである。ラウアン・アピトン林、ラウアン・ハガチャク林に交つて最も多い。二羽柿科林の主要部をなす樹木である。



(挿圖三十五) White lauau (*Pentacme contorta*)

左は果實

樹皮は厚さ一糎乃至二糎、褐色又は類黒色で、日光に曝されたものは灰色である。明白な縦の隆起線があつて特に樹幹の上部に於ては著しく、それ等の隆起線は對角線狀に連結して居る。隆起線は巾三糎乃至五糎、溝は巾約一糎で淡褐色である。稚樹皮の溝にはコルク質の小隆起が充滿して居るものがある。老樹皮は根本で隆起線が消滅し多少鱗狀をなして居る。靱皮は褐色又は稍ピンク色で纖維質である。樹皮の溝の下側はクリーム色の縦條となる。葉は單葉、互生、小毛はない。長さ七糎五耗乃至二十三糎、巾三糎五耗乃至十糎に及ぶ。

邊材及び心材は灰白色で輕軟、木理は通直、粗糙である。保存期が短く加工し易い。

用途、強靱、保存よりも安價、加工の容易を主眼とするものを使用する。例へば安家具、造船(獨木舟、艇船、橋、板材)、家屋建築(扉の羽目、仕切、側面)、箱、コンクリートの流し型。

分布、ルソン島(カガヤン、イロコス・ノルテ、イロコス・スル、アブラ、ボントク、ベングエット、イサベラ、ヌエバ・ビスカヤ、パンガシナン、ブラカン、リサール、サンパレス、バタアン、ラグナ、タヤバス、カマリネス、ソルソゴン、アルバイ)、ポリロ島、マリンツケ島、ミンドロ島、マスバテ島、サマル島、ネグロス島、ミンダナオ島(アグサン、サンボアング、ラナオ、ダバオ)、バシラン島。恐らく全島に分布する。

學名、ペンタクメ・コントルタ (*Pentacme contorta*)。

最も一般的な名稱はラウアン(ホワイト・ラウアン、ラウアン・ブランコ(Lauan blanco)、ラウアン・

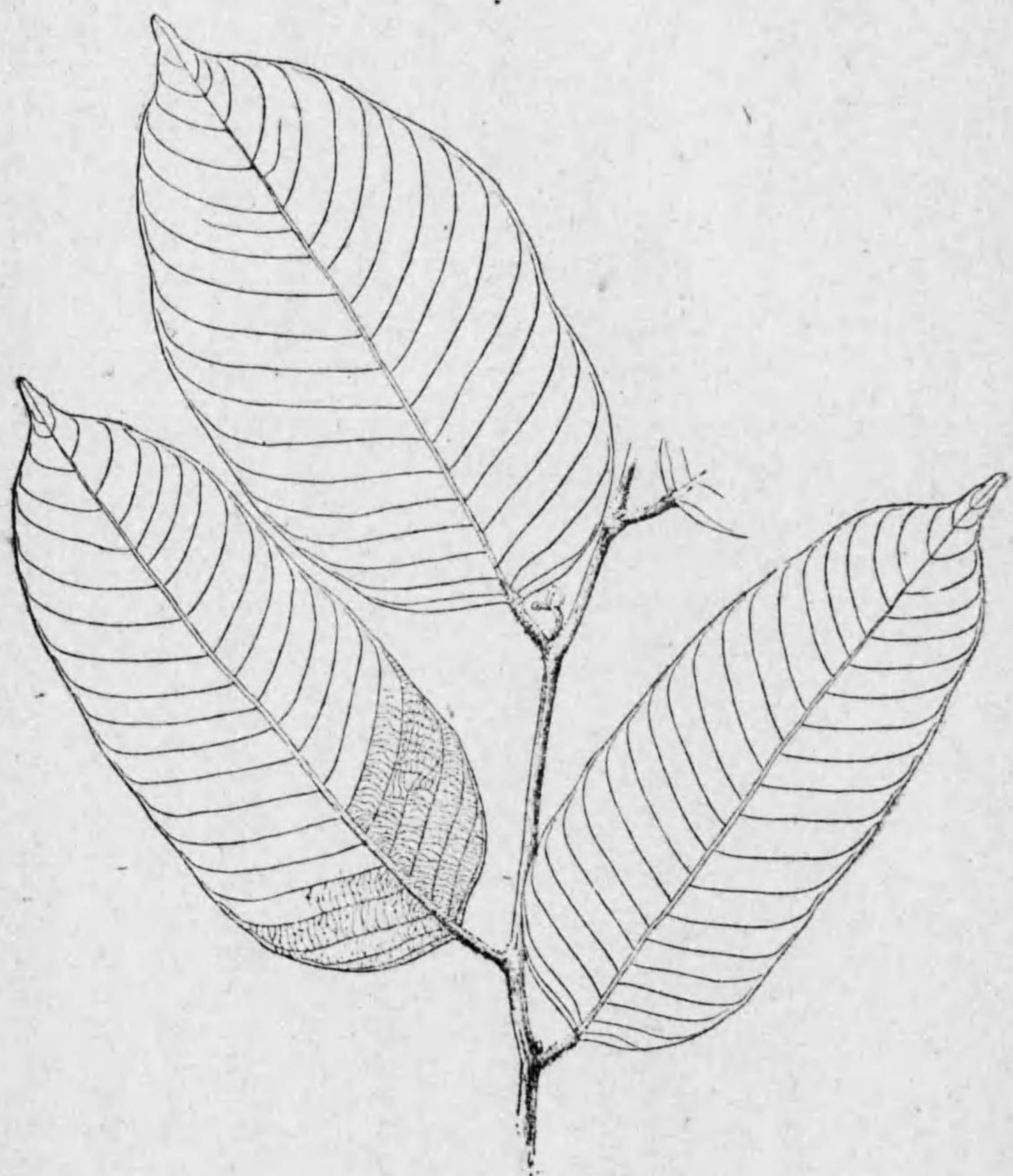
プチ (Lauan puti)) であるが、左の如き地方名もある。

地方名、アプニット (Apnit) (イバナグ語、ピコル語)、バラバク (Balabak) (カガヤン州)、バユカン (Bayukan) (ラグナ州、サンバレス州)、プギス (Bugis) (ダバオ地方)、ダンログ (Danlog) 及びその類似語 (ビサヤ語)、チラアン (Diraan) (イコロト語)、ハプニット (Hapnit) (ビサヤ語)、ラウアアン (Lauan) (タガログ語、ビサヤ語)、マラアノナン (Malanonang) (リサール州、アンボス・カマリネス州)、マラカヤン (Malakayan) (モロ語)、マンガシノロ (Mangasinoro) (南部ルソン島、マスバテ島)、サンダナ (Sandana)

アルモン・ラウアン (Almon-lauan)

樹高四十五米乃至五十米、直径一米五〇糎に及ぶ喬木である。樹幹は整形の錐状をなし最高三十米に達す。老樹には稍著しい板根がある。樹冠は樹幹の三分の一乃至半分を占め、横に廣く扁平な圓錐形をなすもの或は不整形なものがある。繁茂は稍密。乾季の明白ならざる地方にのみ生育し、緩慢な傾斜地を占め、肥沃な乾燥土壤を好む。日蔭にも耐えるから密林中にてもよく繁茂する。他のラウアン及びアピトンに交つて屢々純林をなして居る。

樹皮は厚さ一糎五耗乃至二糎。稚樹及び中年樹木の皮は肉桂褐色、老樹は暗色を増し、強烈な日光に曝せば色が淡くなる。樹高中庸の木の樹皮には巾三糎乃至四糎の平坦な隆起線をはさんで長い溝が



(挿圖三十六) Almon-lauan (Shorea furfuracea)

あり、更にこれ等の溝は横断線によつて連結して居るから樹皮は不整の長方形となつて脱落する。隆起線は樹木の基部では明白でなく、溝は單に浅い龜裂となる。老樹になれば隆起線は顯著となり、特に上部に於て著しく、溝は深く中にコルク質の小隆起線が出来る。中皮は極めて薄く、凹凸の暗紫色層がある。靱皮は、表皮の隆起線下に當る部分は淡褐色又は稍黄色、溝の下に當る部分はクリーム色で縞模様をなして居り、纖維性である。

葉は互生の單葉、長さ九糎乃至十七糎、巾四糎五耗乃至九糎、表面は平滑であるが裏面並に葉柄、若枝には小毛が密生する。

邊材はクリーム色、外氣に曝せば淡褐色となる。心材は淡いクリーム褐色又は淡赤色で、材質は輕軟。

用途、輕建築物、一時的建築物の一般に用ひ室内造作用に愛好さる。この他用途はホワイト・ラウアンに等しい。

分布、ルソン島(ラグナ、タババス、カマリネス、ソルソゴン、アルバイ)、ネグロス島、ミンダナオ島(スリガオ、サンボアンガ)、バシラン島。

學名、シヨレア・フルフラセア (*Shorea fufuracea*)。

アルモン・ラウアンの材はマニラ市場にて『アルモン』及び『ホワイト・ラウアン』と稱して賣買する。

地方名、ダンリグ (Danlig) (タババス州)、ラウアン (Lauan) (タガログ語)、マラカヤン (Malakayan) (モロ語)、マンガシノロ (Mangasinoro) (ソルソゴン州、アルバイ州、アンボス・カマリネス州)、マヤピス (Mayapis) (タババス州)。

バゲチカン・ラウアン (Bagitikan-Lauan)

樹高四十米乃至四十五米、直径一米五十糎乃至一米八十糎に達す。樹幹は整形、二十米乃至三十米に及び、著しい板根がある。樹冠は不整形の瓶型をなし繁茂が稍密、樹幹の四分の一乃至三分の一を占める。

乾季の明白ならざる地方に存在し、他の樹種より豊富である。ルソン島のバレル州からミンダナオ島のダバオに到る地域に分布する。緩慢なる傾斜地の土壤深い場所を最も好適とするが、平地から海拔五百米までの土壤浅い地にもかなり生育するを見る。陰樹であるが幾分間隙のある地を理想的とする。雨季に於て半ば空いた地によく根をつけた苗は、乾季に他の樹木が落葉して居る間廣々とした地を占めて十分に繁茂する。

樹皮は厚さ一種乃至二種。稚樹の樹皮には縦の罅があり、年經るに従ひそれは長短不同の角ばつた隆起線となる。これ等の隆起線は互に對角線狀に連なるから樹皮面は網目模様となる。隆起間の溝に



(挿圖三十七) Bagtican-lauan (*Parashorea plicata*)

左上は果實

は通常褐色のコルク質小隆起線があり、樹皮の色は褐色又は類黒色であるが強烈な日光に曝せば色は淡くなる。中皮は薄く、隆起線の下に當る部分は紫赤色を呈す。韌皮は焦茶色、纖維質で表皮の溝の下になる部分は稍白色である。葉は單葉、互生、裏面に粉緑色の蠟粉がある。長さ九種乃至二十一種、巾四種五種乃至十一種に及ぶ。

邊材は稍灰色、心材は新しい時濁褐色だが古びれば淡い赤褐色となる。輕軟で保存期は短い。但し他のラウアンの如く四つ割挽きとすれば美麗である。

用途は材色の淡い他のラウアン類に同じ。

分布、ルソン島 (バレル、ブラカン、リサール、ラグナ、タヤバス、カマリネス、ソルソゴン、アルバイ)、カタンザアネス諸島、ポリロ島、マスバテ島、レイテ島、ネグロス島、ミンダナオ島 (サンボアング、ダバオ)。

學名、パラショレア・プリカタ (*Parashorea plicata*)。市場では『ラウアン』、『アルモン』と呼稱する。

地方名、アプニット (Aputit) (南部ルソン島)、バグチカン・ラウアン (Bagtikan lauan) (ネグロス島)、バユカン (Bayukan) (ラグナ州)、ダンリグ (Danlig) (タヤバス州)、ハプニット (Hapnit) (南部ルソン島)、ラウアン (Lauan) (タガログ語、レイテ島、マスバテ島、スリガオ州)、ラウアン・プチ (Lauan puti) (リサール)

ル州)、マラアノナン (Malaanonang) (リサール州)、マンガシノロ (Mangashinoro) (マスバンテ島)、マヤピ
ス (Mayapis) (パレル州)。

マラアノナン・ラウアン (Malaanonang-Lauan)

外観が總じてホワイト・ラウアンに酷似し、植物標本によればその分布はルソン島北部、中部、南
はタヤバス州に及ぶ。

樹皮は厚さ一糎乃至二糎、明瞭な隆起線がある。材色は黄色又は赤色を帯びた淡褐色であり、堅重
中庸、時には軽いものもある。

用途は他のラウアン材に共通。

葉は長さ五糎乃至十二糎、巾四糎乃至七糎五耗、裏面には小毛があるので乾燥すれば朽葉褐色とな
る。

分布、ルソン島 (パンガシナン、ヌエバ・エシハ、リサール、タヤバス)。

學名、ショレア・マラアノナン (*Shorea malaanonan*)。

市場では『ラウアン』と稱す。

地名、ダンリグ (Darlign) (タヤバス州)、ラウアン・プチ (Lauan puti) (ヌエバ・エシハ州)、マラア

ノナン (Malaanonang) (リサール州)、ラウアン (Lauan) (リサール州、タヤバス州)、パマヤワセン (Pa-
maywasen) (パンガシナン州)。

カルンチ・ラウアン (Kaluntitan)

樹高五十米乃至五十五米、直径一米八十糎に達する巨木である。ミンダナオ島サンボアンガ地方の
みに生育し、山背又は傾斜地の上部にヤカルと交つて存在する。習性その他はヤカルに酷似する。

樹幹はかなり整形、三十米乃至四十米に達し、老樹になれば著しい板根が出来る。樹冠は狭乃至稍
横廣く、半ば開く。表樹皮は厚さ一糎乃至二糎五耗、稚樹の樹皮は一樣に平滑で褐色を呈し短い灰色
の縦條がある。直径七十五糎以上に成長してもこの縦條は往々存続する。

直径二十糎以上になれば、樹皮には巾三糎乃至八糎の隆起帯を生じ、更にその隆起帯上には巾の六
倍乃至八倍の間隔を置いて水平龜裂が生ずるから樹皮面は略ぼ整つた矩形網となる。稚樹の中皮は緑
色であるが、長ずれば部厚の褐色層に變はる。靱皮は黄色又は黄褐色で、斜に排列した纖維組織より
成る。

葉は單葉、互生、革質、長さ七糎乃至十二糎、巾三糎乃至六糎、表面は暗綠色、裏面は淡綠色で平
滑である。

新しい邊材は濁クリーム色、古びれば淡褐色となる。心材は淡黄色。樹木を切れば褐色の油分を分泌し、直ちに凝固して眞黒の脆い樹脂となる。

材質は輕軟で粗く、木理は通直である。

用途は狭いが、將來市場にかなり出廻る見込みで、ラウアンとして通用するであらう。

産地はミンダナオ島のサンボアンガ地方のみといふが、同島の他地方及び近在諸島からも産出するらしい。

葉の特性からして本材はツアチカ屬に類するものと假定さる。地方名にはカルンチ (Kalunti or ca-lunti) の一種があるのみである。

マンガシノロ・ラウアン (Mangsinoro-lauan)

『マンガシノロ』といふ名稱は他のラウアン類に多く適用するが、正銘のマンガシノロ・ラウアンは南部ルソン島に産するシヨレア (Shorea) 屬の一種で、材は黄白色、輕軟、その組織は全く他のラウアン類と異なる。木材の見地から分類すれば、ホワイト・ラウアンに類するであらう。資料が少なくて克明に本材の説明が出来ぬを遺憾に思ふ。恐らく蓄積少く分布も狭いであらう。

マヤピス・ラウアン (Mayapis-lauan)

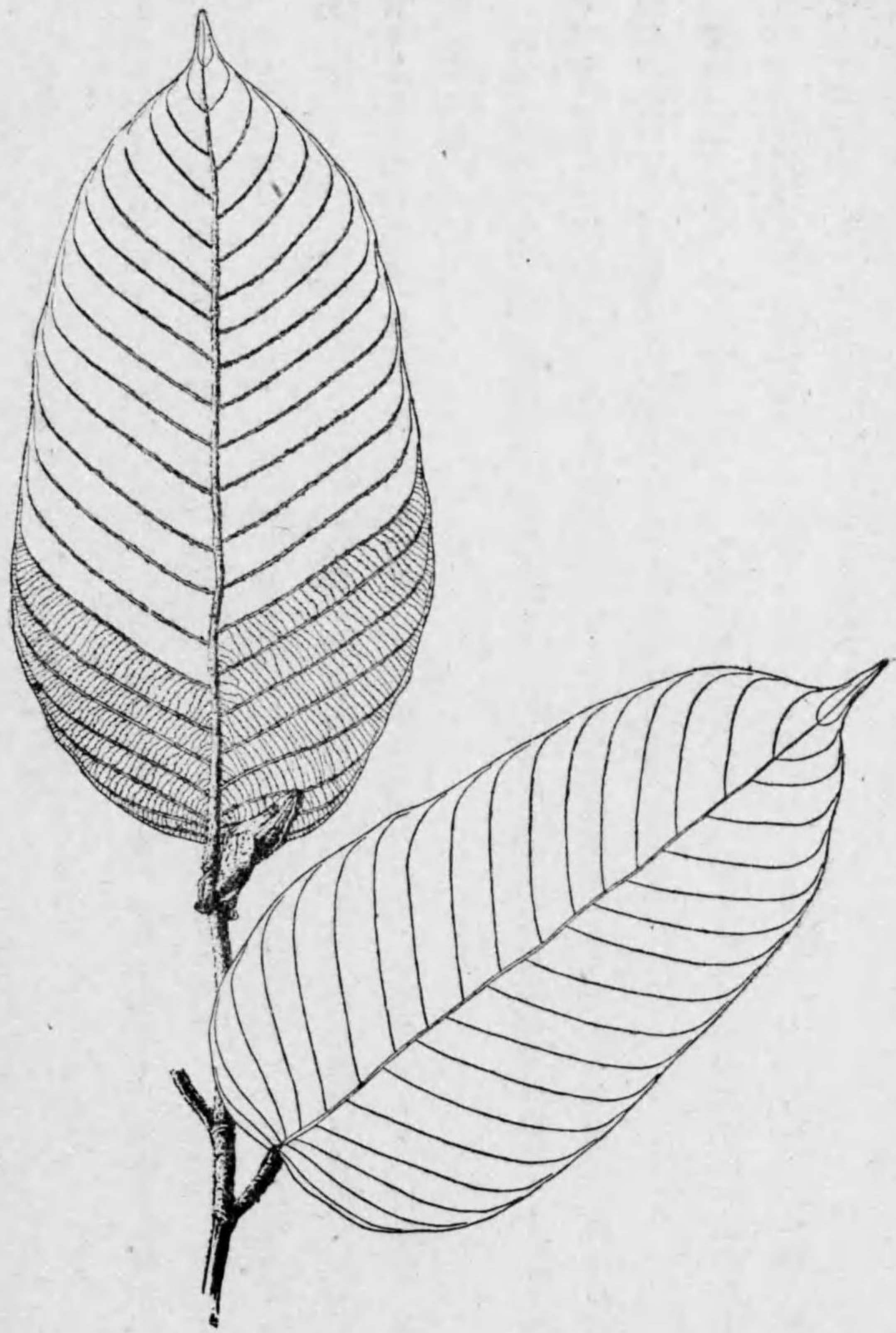
樹高四十米乃至四十五米以上、直径一米五十糎に達す。著しい板根があり、樹幹は整形で二十五米乃至三十米に及ぶ。樹冠は廣く扁平の圓錐形をなし繁茂は密である。

ラウアン林及びラウアン・ハガチャク林を構成し、ルソン島北部よりミンダナオ島南部にかけて豊富に産出する。低地の肥沃で排水のよい深い土壤を最も好適とする。併し海拔三百米の高度にまで生育する例も稀にある。陰樹で乾季の明白ならざる地方に他のラウアン類、アピトン類及びハガチャクと共生する。

樹皮は厚さ八糎乃至一糎六糎、褐色、暗褐色又は肉桂褐色で、強烈なる日光にさらせば灰色となり、水に濡らせば黒色となる。隆起線が著しく、特に上部に於てさうである。韌皮は褐色乃至稍淡紅色で、溝の下に當る部分は縦條となり、纖維質である。

葉は單葉、互生、長さ十二糎乃至三十糎、巾六糎乃至十一糎に及ぶ。裏面には粗い毛があり、中肋及び葉脈に沿ふて特に毛が著しい。これ等の小毛は束となつて附着し、肉眼には星形に見える。葉の裏は粗糙で、頑丈な葉柄はかなり長く存続する。

アルモン・ラウアンに酷似するが、樹皮が暗色で、葉は大きく粗糙、小毛が著しく、材は赤色が濃



(挿圖三十八) Mayapis-lauan (*Shorea squamata*).

いから判別し易い。

邊材はクリーム褐色乃至稍淡紅色、心材は淡赤色又は赤色、幾分樹脂質である。木理は通直、整形。輕軟だが稀には堅硬中庸なものもある。

用途、一時的或は輕建築物、特に地面に接しないものに適する。室内造作、輕家具材として愛好され外觀がよい。地方によつては獨木舟及び家屋建築一般に用ひらる。

分布、ルソン島(カガヤン、イサベラ、ラグナ、タヤバス、カマリネス、ソルソゴン)、ポリロ島、マリンドク島、ミンドロ島、サマル島、ミンダナオ島(ミサミス、ラナオ、アグサン、サンボアング)、バシラン島。

學名、シヨレア・スクアアマタ (*Shorea squamata*)。

マニラ市場では、『マヤピス』、『ラウアン』、『レッド・ラウアン』、『タンギル』と稱して取扱はれて居る。

地方名、アラム (Alam) (ミンドロ島のマンガヤン語)、バラバク (Balabak) (イバナグ語)、ダンリグ (Danlig) (タヤバス州)、ラウアン (Lauan) (タガログ語)、マラカカオ (Malacacao) (タヤバス州)、マラカヤン (Malakayan) (モロ語)、マラシノロ (Malasinoro) (サマル島)、マヤピス (Mayapis) (タガログ語)、オグハヤン (Oghayan) (サマル島)、タバク (Tabak) (タヤバス州)、ウバナン (Ubanan) (アグサン州のマノボ語)。

レッド・ラウアン (Red Lauan)

樹高四十米乃至五十米、直径最大二米に達する。樹幹は通直な圓筒形をなし三十三米に及ぶ。先は稍錐狀で著しい板根がある。樹冠は樹幹の四分の一乃至三分の一を占め、不整形のドーム型をなす。種々な點でアルモン・ラウアンに酷似し、アルモン・ラウアン、アビトン、タンギル、バグチカン・ラウアンと共に、ネグロス島の二羽柿科林を形成して居る。緩慢な傾斜地或は稍峻しい傾斜地の肥沃な土壤を好む。

蔭地植物であるが、稚樹は半ば開豁な地が良い。

樹皮は厚さ一糎乃至二糎、褐色又は赤味ある類黑色を呈する。隆起線は上部で特に著しく、隆起間には浅い溝がある。樹皮は長さ十糎乃至二十糎の矩形となつて脱落し、剝離後の露出部は紫黑色、焦褐色或は灰色で、厚いコルク質の角皮層に蔽はる。巨木の板根間には往々不整形の大きな薄片があり、韌皮は不鮮明な焦色又は稍赤色、纖維質で、纖維は白色である。葉は單葉、互生、長さ五糎乃至十九糎中四糎乃至八糎、稍革質である。表面の中肋上、裏面全體、葉柄、若い細枝には稍白色の天鵞絨狀毛がある。

樹皮に近い邊材は稍クリーム色、内部へ行くにつれ徐々に焦色となりやがて赤色の心材になる。材



(挿圖三十九) Red lauau (Shorea sp.)

中央は花集

質輕軟乃至堅重中庸である。

用途、高級品はタンギル及び他のラウアンと共に、室内造作、家具として用ひ、『フィリッピン・マホガニー』と稱してアメリカへ輸出される。米國では室内造作用に愛好され、輸出高は四つ割挽きの櫟と競ふて居る。

地方的には獨木舟及び家屋建築一般に用ふ。

産地はオックシデンタル・ネグロス及びアグサンのみと云ふが、その近在諸州にも産出する様である。レッド・ラウアンはショレア屬の不明樹種で、地方名には『バラクバカン (Balakbakan)』、『マングチャプイ (Mangchapyui)』がある。ネグロス島では『レッド・ラウアン』、マニラ市場では、『バラクバカン』、『タンギル』、『レッド・アルモン』、『レッド・ラウアン』と稱せらる。

タンギル (Tanguile)

樹高四十五米乃至五十米、直径一米六十厘米に達する。樹幹は整形、二十五米乃至三十米で、板根には大小がある。樹冠は横に延び、不整形のドーム型をなして繁茂は密、樹幹の三分の一乃至半分を占める。タンギル・オーク林の主要樹木だが、ラウアン林に交つて生育することもある。

樹皮は厚さ五、六毫米、淡赤色で、小型又は中型の薄片となつて脱落する。老樹皮は新しい間平滑で



(挿圖四十) Tanguile (Shorea polysperma)

上部は花集、右は果實

感觸が柔かい。靱皮は赤色、纖維質である。

葉は單葉、互生、長さ五糎乃至十四糎、巾三糎乃至六糎、薄くて表面は暗綠色、裏面は淡綠色、平滑である。

邊材はクリーム色、外氣に曝せば濁褐色となる。心材は淡赤色乃至赤褐色。浅い土壤に生育せる材は樹幹が短く堅重中庸で、バタアン及びサンバレスでタンギルと稱すものである。深い土壤に生育する材は前者より輕軟で、ネグロス島ではバラクバカン (Balakbakan) と稱せらる。

葉の形は稍相違するが、タンギルの葉及び樹皮は總じてギホに近似して居る。但し兩者は共に生育することはない。タンギルの材は赤色、輕軟乃至堅重中庸。タンギルの軟質材はレッド・ラウアンに酷似し用途も殆んど等しい。堅材はレッド・ラウアンに勝り、家屋建築(床、扉、室内造作)、家具、造船、獨木舟、箱に用ふ。タンギル及びレッド・ラウアンは『フィリッピン・マホガニー』と稱してフィリッピンの主要輸出品である。

分布、ルソン島(カガヤン、イロコス・ノルテ、パンガシナン、サンバレス、バタアン、タヤバス、カマリネス、アルバイ)、ポリロ島、マリナンツケ島、ミンドロ島、セブ島、ネグロス島。

舊蘭領東ボルネオでクラパク (Klapak) と稱し、北ボルネオではオバル・スルク (Obar suluk) と稱する樹木と同種である。

學名、シヨレア・ポリスペルマ (*Shorea polysperma*)。

地方名、アブフンガン (Abuhungan) (アルバイ州)、アダムイ (Adami) (ピロール語)、アラカ (Araka) (イロカノ語)、バラクバカン (Balakbakan) (ネグロス島)、バラガヤン (Balagayan) (ミンドロ島のマングヤン語)、ダミラン (Damlang) (イバナグ語)、マナオグ (Manog) (セブ島)、マヤピス (Mayapis) (タヤバス州)、パタ (Pata) (パンガシナン州)。

チアオン・ラウアン (Tiaong-lauan)

シヨレア屬の一種で、材は赤色軟質である。市場ではレッド・ラウアン、マヤピス・ラウアンと稱せられて居る。樹木は總體的にレッド・ラウアンに酷似するが、葉はタンギルに近い。タヤバス州の一部及びラグナ地方のラウアン林に生育し、蓄積は豊富である。資料が少なくて十分なる説明をすることは出来ないが、用途はレッド・ラウアンに等しい。

アピトン類

アピトン類にはアピトン (Apitong)、パナオ (Panao)、ハガチャク (Hagachac) 及びヂプテロカルプス (*Dipterocarpus*) 屬の他樹種並びにギホ (Guijo) がある。

アピトン

樹高四十米乃至四十五米、直径一米八十種に達す。樹幹は通直、整形で二十五米乃至三十米。樹冠は稍扁平な圓錐形、不整形で半ば開く。ピサヤ群島、北部諸島に生育し、特に乾季の明白なる地方に豊富である。平地に近い地から海拔三百米乃至三百五十米までの山背に存在する。バナオより稍乾燥せる地を好み、陰樹だが幾分間隙ある地を好適とする。

樹皮は厚さ六耗乃至八耗で脆い。強烈な日光に曝された樹皮は淡灰色であるが、蔭地のものは褐灰色である。脱落片は大型の渦形をなしコルク質の小隆起が多数附着して居る。韌皮は類赤色。葉は稍革質、平滑で長さ十九種乃至三十種、巾九種五耗乃至十七種、葉柄は長さ五種五耗乃至七種である。樹木は外觀が著しくバナオに酷似して居るが、葉の特性が異なり樹幹は稍短く、樹皮片及び葉柄が長いから區別することが出来る（バナオの項参照）。

心材は赤味のある暗色、邊材は灰褐色。樹木を傷つければ油分を多量に分泌し、直ちに凝固して半流動體の樹脂となる。この樹脂は地方によつてバラオと稱し、小ボートの船茹に用ふ。船茹とは水の漏るゝを防ぐ爲板の合せ目、縫目を充填することである。

材質は堅重中庸、木理は粗くて通直。フィリッピン島に於ける重建築用材中最も豊富な材であるが



(挿圖四十一) Apitong (*Dipterocarpus grandiflorus*)

上部は果實

耐久性はなし。

用途、家屋建築(室内造作、桷、扉、窓、根太、闕、床、時には耐久性ある材の上部に繼ぎて柱とする)、造船(獨木舟、厚板、底、側面)、杙、普通家具、荷馬車の機臺、橋梁、木炭。

分布、ルソン島(カガヤン、イサベラ、イロコス・スル、アブラ、ベングエツト、パンガシナン、パンパンガ、ヌエバ・エシハ、プラカン、サンバレス、バタアン、リサール、ラグナ、タヤバス、カマリネス、アルバイ)、ミンドロ島、マスバテ島、レイテ島、ネグロス島、パラワン島。その他の諸州にも分布するらし。

學名、デブテロカルプス・グラシチフロラス (*Dipterocarpus grandiflorus*)。

地方名、アナハウオン (Anahauon) (ピコル語)、バラオ (Balao) (タガログ語)、ダマリアン (Damarian) (カガヤン州)、ツコ (Duko) (北部ルソン島)、ハガチャク (Hagachac) (アンボス・カマリネス州)、カムヤオ (Kamuyao) (ビサヤ語、イロカノ語)、マラバホ (Malapaho) (タガログ語)、バグサヒンギン (Pagsanjan) (ラグナ州)、バマリアン (Pamalayan) (カガヤン州)、バマンツリン (Pamantuling) (パンガシナン州、イロカノ語)、バナオ (Panao) (タガログ語)。

バナオ (Panao)

樹高四十米乃至四十五米、直径一米六十糎乃至一米八十糎に達する。樹幹は通直、整形で二十八米



(挿圖四十二) Panao (*Dipterocarpus vernicifluus*)

左中央は果實

乃至三十二米に及び、顯著な板根がある。乾季の明白な地方に多く、アピトンよりは濕潤な地を好む。海拔六百米までの傾斜地に存在する。樹蔭地に幾分耐えるが、苗は稍間隙のある地を好適とする。樹皮は厚さ五耗乃至八耗、淡褐色又は灰色で、コルク質の小隆起が無數に附着して居る。脱落片は大きい。靱皮は纖維質で、褐色又は赤褐色を呈して居る。葉は長さ十糎乃至二十三糎、巾六糎乃至十三糎、裏面に天鵞絨毛があり、葉柄は長さ二糎乃至三糎、毛で蔽はれて居る(アピトンとの相違に關してはアピトンの項参照)。

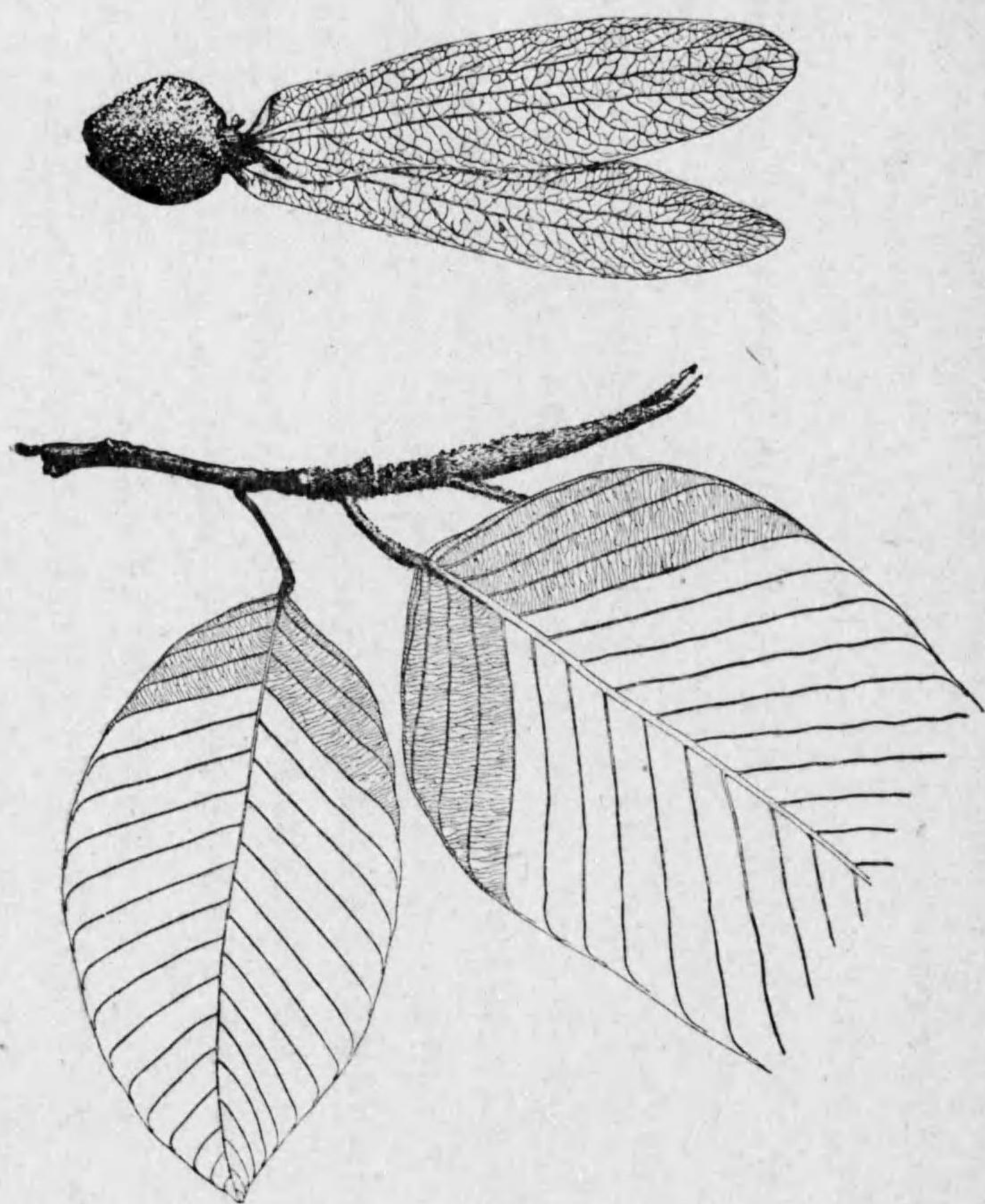
邊材は淡褐色、心材は赤褐色、兩者共樹脂質であり、木理は粗い(アピトンの項参照)。

分布、ルソン島(カガヤン、イロコス・ノルテ、イロコス・スル、パンガシナン、パンパンガ、ブラカン、サンパレス、バタアン、リサール、ラグナ、タヤバス、カマリネス)、ポリロ島、マリンヅケ島、ミンドロ島、レイテ島、ネグロス島、その他の諸州にも産出する。

學名、チアテロカルプス・ベルニシフルウス (*Dipterocarpus venicifolius*)。

地方名、アフ (Ahu) (イロカノ語)、アピトン (Apitong) (タガログ語)、カムヤオ (Kamuyao) (カガヤン州)、マラバホ (Malabaho) (ポリロ島)、バグサヒンギン (Bagsahingin) (ラグナ州)。

ハガチヤク (Hagachac)



(挿圖四七三) Hagachac (*Dipterocarpus affinis*)

上は果實

樹高四十五米乃至五十米、直径一米五十糎乃至一米七十糎、樹幹は三十米に達し、通直で整形、通常板根はない。樹冠は廣い圓錐形をなし半ばつぼまつて居る。全島を通じて乾季の明白ならざる地方に分布し、河川の洪涵平野及び河川に沿ふ低い丘陵に生育する。

樹皮は厚さ六糎乃至八糎、淡褐色である。稚樹の皮は平滑であるが、老樹になれば縦が横の約三倍程の不整形の薄片となつて脱落する。靱皮は赤褐色、心材も略ぼ同色である。

葉は長さ十八糎乃至五十三糎、巾七糎乃至二十二糎、葉柄及び裏面の中肋は粗毛で蔽はる。

材はアピトンに酷似し、市場でもアピトンと稱して賣買されて居る。用途はアピトンに等し。

分布、ルソン島(カガヤン、ラグナ、タヤバス、カマリネス)、マリンヅケ島、ミンドロ島、マスバテ島、サマル島、レイテ島、ミンダナオ島(スリガオ、サンボアング、ダバオ)。

學名、樹種は一種以上存するやうであるが全てチプトロカルプス・アフィニス (*Dipterocarpus affinis*) と稱する。

地方名、アナハウオン (Anahunon) (ピロル語)、アピトン (Aptiong) (マスバテ島、レイテ島、サマル島)、
バユ (Bayu) (スリガオ州)、カムヤオ (Kamuyao) (カガヤン州)、リプト (Liput) (スリガオ州)。

この他アピトン類にはチプトロカルプス・ハッセルチ (*Dipterocarpus hasseltii*)、チプトロカルプス・
スペシオサス (*Dipterocarpus speciosus*) 及び不明樹種があり、何れもラウアン林に生育する。習性は

アピトン並びにバナオに等しく、材も又酷似して居る。これ等の樹種に關しては資料が少。

ギ　　ホ　(Guho)

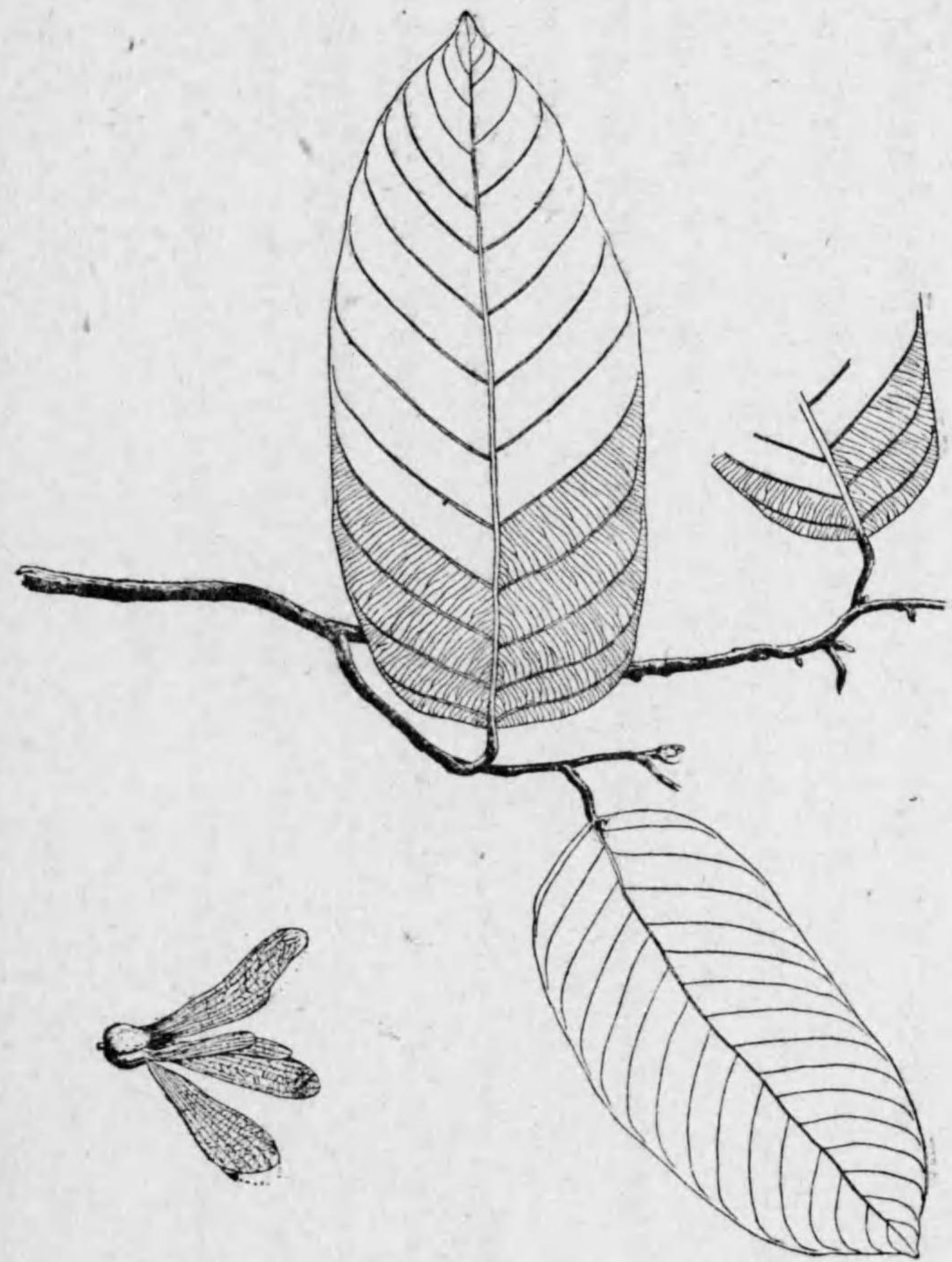
樹高四十米乃至五十五米、直径一米八十糎に達する。樹幹は通直で整形、著しい板根は樹高の五分の三乃至三分の二に及んで居る。樹冠は不整形の球狀、乾季には稍開く。二羽柿科林には必ず存在し、樹蔭地に耐えるが、幾分間隙のある地が良。

樹皮は厚さ五、六糎、長期間日光に曝された樹皮は淡褐色で、コルク質の小隆起が附着して居る。

曝された期間が短いものは肉桂褐色で、何れも渦形又は類矩形となつて脱落する。靱皮は纖維質で淡赤褐色を呈して居る。

葉は單葉、互生、長さ八糎乃至十九糎、巾三糎乃至八糎、タンギルの葉に頗る酷似して居るが、基底の丸みがタンギルより大きい。

邊材は色が極く淡く、心材は灰赤色又は赤褐色。木理はかなり通直。乾燥不充分であると反張する傾向がある。材質は堅重中庸で、フィリッピンの用材樹木中最も用途の廣いもの、一つである。アピトン材の高級品はギホ材に甚だ酷似し、屢々ギホと稱して賣買さるゝ事がある。ギホの耐久力はヤカルに及ばないが、アピトンよりは強い。



(挿圖四十四) Guijo (*Shorea guiso*)

左下は果實

用途、家屋建築 (床、梁、桷、耐久力の強い材の上部に繼いで柱とする、仕切、扉、闔、窓枠、室内造作)、
車輻 (轂、車輪、特に輪縁、輻、その他の部分品)、造船 (甲板の梁、帆柱、甲板、龍骨、檣、突梁の支柱、橈、
橈身、側面板)、家具、船渠、電信柱、杙、農具、大桶、樽。

分布、ルソン島 (カガヤン、イサベラ、アブラ、ヌエバ・ピスカヤ、ポントック、パンガシナン、パンパンガ、サ
ンパレス、バタアン、リサール、ラグナ、バタンガス、タヤバス、カマリネス、ソルソゴン、アルバイ)、マリンヅ
ケ島、ミンドロ島、マスバテ島、チカオ島、サマル島、レイテ島、オックシデンタル・ネグロス島、
ミンダナオ島 (サンボアンガ、コタバト、ダバオ)、バシラン島。

學名、シヨレア・ギソ (*Shorea guiso*)。

地方名、ベチク (Beik) (ラグナ州)、ギソク (Guisoc) (ビサヤ語、モロ語)、カタパン (Katapang) (ヌ
エバ・ピスカヤ州)、リタン (Ritan) (カガヤン州)、ニケト (Niquet) 又は Niket) (イロカノ語)、サライ (Sa-
rai) (イロカノ語)、ヤンバン (Yamban) (イロカノ語)、シタン (Zitan) 又はその類似語 (イロカノ語)。

ヤカル類

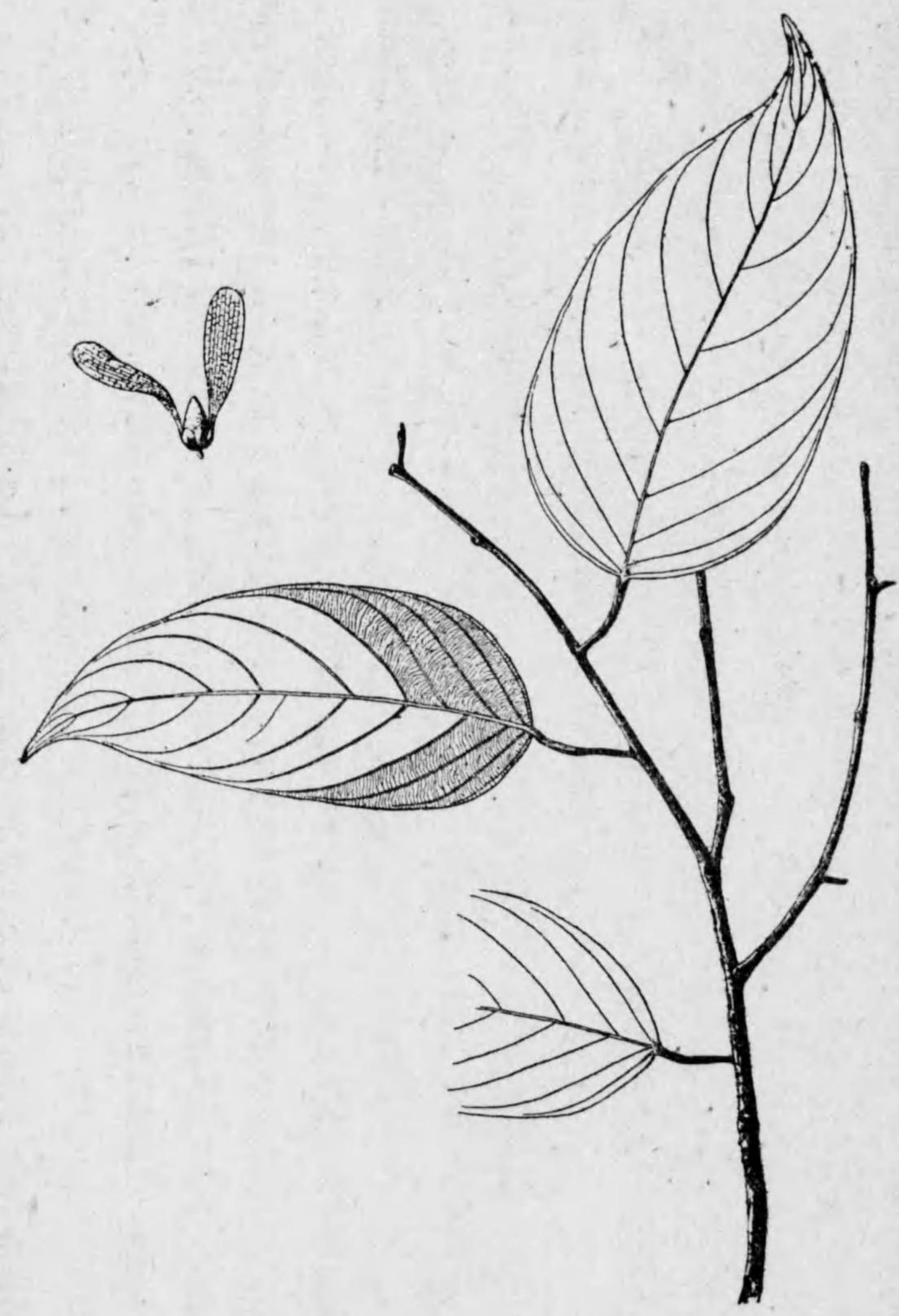
ヤカル類の樹種には混同が激しく正確な判定は困難である。大別すれば正統ヤカル類とマンガチャ
パイ類の二種があり、マンガチャパイ類には更に二つの等級があつて、一級品は堅硬度、耐久力がヤカ

ルに稍劣る程度である。二級品は堅硬度、耐久力が遙かに一級品に及ばない。何れも一様にマンガチヤプイの名稱で賣買されるため、耐久力の弱い二級品は屢々一級品に汚名を被せることがある。二級品の樹種に關しては資料が不充分であるから、明確な判定をすることは出来ない。

ヤカール (Yacal)

樹高は四十五米乃至五十五米、直徑八十糎乃至一米八十糎に達するが、成長樹で樹高四十五米以下のものも往々ある。樹幹は整形、木瘤はなく著しい板根がある。樹冠は半ば開いて廣く、二三本の大枝があり、樹高の四分の一乃至三分の一を占める。常緑樹だが乾季の一時には繁茂が疎となる。海に沿ふた低い火山岩質の丘陵に生育し、特に海中に突出せる岬には豊富に繁茂する。山背及び傾斜地上部の排水のよい浅い土壌を好む。時には緩慢な斜面の深い土壌地に散在するのを見るが、濕地には絶體に生育しない。樹蔭地には幾分耐える。但し稚樹は乾季を無事に過せば開豁地を好適とする。垂直分布は海面近い地より海拔約二百米までである。

樹皮は厚さ一種乃至一種五糎、灰褐色、肉桂褐色又は褐色で、大小片となつて脱落する。日光に曝された樹皮は稍色が淡い。老樹の新しい樹皮には時として割目がある。稚樹の皮は暗褐色で平滑、割目を生じたものも稀にあり、靱皮は新しい間黄褐色だが直ぐ褐色に變ずる。



(挿圖四十五) Yacal (Hopea plagata)

上は果實

葉は單葉、互生、長さ六種五耗乃至十二種、巾三種乃至六種である。補葉脈の葉腋に堅果のあるものもある。但し老樹の葉には皆無で、これ等は平滑、革質である。

邊材は淡黄褐色、心材は黄褐色より稍淡い色或は褐色であり、老樹になれば暗褐色となる。材は木理が粗く、交叉状の纖維組織を有し、切線状には容易に割れるが、放射状には割れ難い。堅重で耐久性があり樹木を傷つければ一種の油分を分泌し、直ちに暗色で脆い樹脂となる。

用途、ヤカルは堅材中最も豊富な材で、特に地に接する建築物には好適である。併し船食蟲の侵害を容易に受くる缺點がある。

家屋建築（柱、梁、桷、床、扉、闕、扉）、造船（龍骨、甲板、側面、檣、縦舵）、橋梁、鐵道枕木、箆筒、家具、車輛（特に輻、輪縁）。

分布（ヤカルのみならず、葉及び材の特性が著しく近似する樹種も含む）。

ルソン島（カガヤン、ヌエバ・ビスカヤ、パンガシナン、ヌエバ・エシハ、サンブレス、カマリネス、タヤバス、ソルソゴン）、ミンドロ島、ミンダナオ島（サンボアング、コタバト）。

學名、ホヘア・ブラガタ (*Hopea plagiata*)。

地方名、ベタク (Betik) (イロカノ語)、ギソク (Gisoc) (ピコル語、ビサヤ語、モロ語)、パボロンガン (Papolongan) 及びその類似語 (タガログ語)、サボロンガン (Sapolongan) (タガログ語)、シッガイ (Sigai)

(Eai) (イロカノ語)、タッガイ (tagai) (イロカノ語)。

ギ ソ ク (Gisoc)

ギソクはヤカルと共に市場でヤカル材と稱され、その習性はヤカルに酷似する。樹高三十五米乃至四十五米、直径一米五十種乃至一米七十種に及ぶ。樹幹は、同直径のヤカルに比すれば短く、その結果ずんぐりした外觀を呈する。

新樹皮は赤褐色乃至褐色であるが、古びれば暗褐色又は略ぼ黒色となる。脱落片は大きく不整形である。新樹皮並びに稚樹の樹皮には割目がある。

葉は互生、單葉、長さ八種五耗乃至十五種、巾二種乃至六種。葉裏、葉柄及び細枝には美しい褐色の小毛がある。この葉毛は葉の成長と共に朽葉褐色に變ずるから、樹木を下より見上げれば樹冠は朽葉褐色に見える。乾季に葉の生え代る間繁茂は疎となるが、全部落葉することはなく、群葉の三分の二は常に保持して居る。

材は總じてヤカルに酷似し、市場でヤカル材と稱するもの、大部を提供して居る。仔細に檢分すれば板目はヤカルより美麗であるが、堅硬度及び用途は兩者共に等しい。

分布はタヤバス、アルバイ、マスバテ島、サマル島、レイテ島と稱するが、その他の諸地方でも産



(挿圖四十六) Guisoc (*Shorea balangeran*)

右中央は花集

する。

學名、ショレア・バラングラン (*Shorea balangeran*)。

普通名稱には『ギソク』の他に『ギソク・アマリロ』(*guisoc amarillo*)、『ギソク・ギソク』(*guisoc-guisoc*)がある。パンガシナン及びサンバレス産の『ギソク・コロラド』(*guisoc colorado*)、『ヤンバン』(*yamban*)と稱するヤカル材は恐らくギソクであらう。

ブラック・ヤカル (*Black yacal*)

樹高三十米乃至三十米以上、直径六十種乃至九十種に達する。樹幹は不整形で螺旋狀に撚纏して居る。樹皮は薄く(三、四耗)、赤味のある黒色で、明白な隆起線がある。靱皮は淡褐色。邊材は半径の四分の一を占め、外氣に曝せばチョコレート褐色の心材と同色になる。材はヤカルに酷似するがより堅硬である。

海邊の乾燥せる低い丘陵に單獨又は群をなして散在し、産地はミンダナオ島サンボアンガ地方のみでその他は聞かぬ。市場ではヤカル材と稱する。

果實、花の標本はないが、ブラック・ヤカルはホペア (*Hopea*) 屬に類するものと看做される。

マラヤカル (Malayacal)

樹高平均三十米乃至四十米、直径六十種乃至八十種に達する。樹皮の特性は甚だしくヤカルに酷似して居るから、一見ヤカルと間違ひ易い。併しヤカルより樹幹が短く板根も小さい。又ヤカルの開いた樹冠に比してブラツク・ヤカルは繁茂が密でつぼまれて居り、樹皮もヤカルより薄く（六耗乃至一耗）、葉は大で薄く、形が異つて居る。ヤカルが山背、斜面の上部或は乾燥せる岩質土壤の低い斜面に生育するに對し、ブラツク・ヤカルは低い傾斜地、狭谷、河邊の洪涵平野、海に沿ふた低い丘陵地帯に生育する陰樹である。

材はヤカルに酷似し用途も又同じである。産出地はミンダナオ島サンボアンガ地方のみである。葉の標本より見てシヨレア屬に類するものと假定されて居る。

ギソク・ギソク

樹高二十米乃至二十五米、直径五十種以下である。樹幹はかなり整形、軽い板根があり、根本には常に枯れた細枝が附着して居る。樹冠は半ば開き横に廣い。全島を通じて乾季の明白ならざる地方に分布し、低い傾斜地及び河邊に散在する。陰樹であるから、薄暗い二羽柿科の密林にもよく生育して



(挿圖四十七) Guisoc-guisoc (*Hopea philippinensis*)

右上は果實

居る。新樹皮は淡褐色、古びれば暗褐色乃至黒色となる。厚さ三耗乃至五耗、大きな鱗片となつて脱落する。韌皮はピンク色を帯びた褐色である。

葉は單葉、互生、長さ十糎乃至二十六糎、中四糎乃至七糎、補葉脈の葉腋にある堅果は毛に蔽はれ、托葉は鋭く尖つて居る。

新しい邊材はクリーム色だが古びれば褐色となる。心材は褐色乃至チョコレート褐色で所々に暗褐色の條がある。ギソク・ギソクは樹木が小さく、従つて耐久力の弱い邊材が木の大部分を占めて居るから餘り伐採せぬ。心材は堅硬で、耐久力がヤカルに必敵し、その代用となる。

分布、ルソン島(タババス、カマリネス、アルバイ)、レイテ島、オックシデンタル・ネグロス島、ミンダナオ島(アグサン)。

學名、ホペア・フィリッピンシス (*Hopea philippinensis*)。

地方名、バラクバカン (*Barakbakan*) (アグサン州)、マキタリム (*Makitarim*) 及びその類似語(ピコル語、ビサヤ語)、バイナ (*Paina*) (ピコル語)。

ミンダナオ島サンボアンガ半島より産出し、モロ語で『マンガスス』と稱するホペア屬の不明樹種がある。その習性、色、樹皮の特徴、葉の形、堅果の存在、及び果實はギソク・ギソクに類似してゐる。但し樹木が一體に大きく、樹高最低三十五米、直徑六十糎に達し、葉はギソク・ギソクの二倍乃至三倍の大きさで、材には不揃ひの黒色輪がある。それ以外はギソク・ギソク材に全く同じである。

マンガチャパイ (*Mangachapay*)

樹高三十米、直徑八十糎乃至一米に達する。樹幹は整形、二十米に及び、樹冠には小さい葉が密生して居る。タンギルと共に傾斜地に生育し、海拔三百米以上の高度では豊富な蔭地植物として繁茂して居る。

樹皮は厚さ一糎乃至一糎五耗、短い目立つた隆起線が、互に對角線狀に連なり多小整ふた網目模様をして居る。溝の中には通常コルク質の小隆起線があり、隆起線は褐色乃至黒色、溝は淡褐色又は稍黄色を帯びて居る。中皮は褐色、韌皮は淡クリーム黄色、纖維質で油分に富む。

葉は單葉、互生、薄くて表裏平滑、補葉脈の葉腋には堅果があつて、葉の基底に近づくに従ひ堅果は大きい。葉身は長さ四糎五耗乃至八糎、中二糎乃至三糎五耗である。

新しい邊材は淡クリーム色、古びれば濁褐色となる。心材は新しい中淡い黄褐色であるが、古びれば次第に暗色となる。材質は堅重、耐久力はヤカルに稍匹敵する。木理は通直、稍美麗である。

用途、家屋建築(仕切、天井、模塑、柵、柱、梁、床、闔、扉)、造船(橋、甲板、側面)、杣、鐵道枕木、埠頭。



(挿圖四十八) Mangachapuy (*Hopea acuminata*)

中央は果實

分布、ルソン島 (カガヤン、イロコス・ソルテ、パタアン、ラグナ、タヤバス、カマリネス、ソルソゴン、アルバイ)、ミンドロ島、レイテ島、ネグロス島、バシラン島。

學名、ホヘア・アキュミナタ (*Hopea acuminata*)。マンガチャプイは一名『ダリンチンガン』 (*Dalingingan*) とも稱せられ、取引上では往々この名稱

が用ひられて居る。

ダリンチンガン・イサク (*Dalingingan-isak*)

細部にわたつてマンガチャプイに酷似するが、密な葉脈と葉腋にある毛に蔽はれた堅果が目立つこととで區別が出来る。葉は長さ三種乃至八種五耗、巾一種乃至三種五耗。材はマンガチャプイに酷似してゐる。ラウアン林に散在し、樹高はラウアン類に及ばない。

分布、ルソン島 (カガヤン、パンガシナン、ラグナ、インファンタ、タヤバス、カマリネス、ソルソゴン、アルバイ)、ボロロ島、ミンドロ島、ネグロス島。

學名、ホヘア・ピエルレイ (*Hopea pierrei*)

地方名、ダリンチンガン (*Dalingingan*) (タガログ語)、リト (*Rito*) (ソルソゴン州)、マキタレム (*Makitarum*) (ソルソゴン州)、マンガチャプイ (*Mangachapuy*) (タガログ語、ビサヤ語)、ピサク (*Pisak*) (カガヤン州)。

ナリグ (Narig)

樹高二十米乃至三十米、直径七十糎、樹幹は整形で樹高の約三分の二を占め多少板根がある。樹冠は半ば開き、海邊の乾燥せる山背に存在し、ミンダナオ島の或地方では常にヤカル・ラウアン林のヤカルと共生して居る。

樹皮は厚さ五糎乃至七糎、新樹皮は褐灰色だが風雨に曝されると淡灰色になる。韌皮は淡いピンク色で暗褐色の斑點があり堅くて脆い。葉は互生の單葉、革質で、長さ四糎五糎乃至十糎、巾三糎乃至五糎五糎に及ぶ。

邊材はクリーム色又は淡褐色、耐久性はない。新しい心材は淡黄色、古びれば赤味ある暗褐色となる。屢々稍綠色の條又は斑點を見る。木理はヤカルより美麗であるが、樹木が小さいため邊材が大部分を占むると云ふ缺點がある。

分布、ミンダナオ島のサンボアンガ及びダバオ地方、並びにバシラン島のみに分布すると云ふが、ミンダナオ島の諸地方及び近在諸島からも産出する。バラワン島のアトバイ (Atpai) と稱する樹木は多分ナリグであらう。

ナリグはバチカ屬 (*Vatica*) に類し、種々なる點に於てカリグ (*Vatica mangachapoi*) に近似して居

るから、恐らくカリグと同種であらう。

カリグ (Karig)

西部ルソン島に産し、海拔三百五十米より七百米の間に生育する。ナリグに酷似するが、葉がより小さく、淡黄色の材には綠色の斑點がない。但しナリグと同じく古びれば暗赤褐色となる。

分布、ルソン島 (カガヤン、イロコス・ノルテ、イロコス・スル、ベンゲット、パタアン、リサル)。

學名、バチカ・マンガチャポイ (*Vatica mangachapoi*)。

昔マンガチャポイと稱された材は本材らしいが、今は『マンガチャポイ』と云はない。

地方名、アニガ (Aniga) (ミンゲット州)、アニングガット (Aningat) (パンガシナン州)、ダンギ (Dangi) (リサル州)、ラバン (Rabang) (イロカノ語)。

ヤカル・ブランコ (Yacal blanco)

ヤカル・ブランコはナリグ及びカリグに甚だ酷似し、ルソン島、レイテ島のヤカル・ラウアン林に存在する。即ち、乾季の全々ない地方、或は乾季の明白ならざる地方の海に沿ふた低い丘陵地に適して居るやうである。



(挿圖四十九) Karig (*Vatica mangachapoi*)

左上は果實

分布、ルソン島 (カガヤン、パレル、タヤバス、カマリネス、アルバイ)、ポリロ島、レイテ島。
 地方名、バニ (Bani) (カガヤン州)、ビビト (Bibit) (パレル州)、ヅログ (Durog) (レイテ島)、シオン
 シオンガン (Siongsiongangan) (レイテ島)、タプラオ (Tapuraao) (アルバイ州)、ヤカル (Yacal) (ポリロ島)。
 ナリグ、カリグ、ヤカル・ブランコの心材は堅重でヤカルに匹敵し、往々ヤカルの代用となる。但
 し木理はヤカルより美麗で平滑である。三樹種は互に酷似し、區別は甚だ困難である。

パロサピス類

アニソプテラ (*Anisoptera*) 屬の材はラウアン類、アビトン類及びヤカル類と全々異なる。

パロサピス (*Palosapis*)

樹高四十米乃至四十五米、直径一米二十糎乃至一米八十糎に達し、通直、整形な樹幹は板根がなく、
 全樹高の五分の三乃至三分の二を占める。雨季には樹冠の繁茂が密となり、葉の生え代る乾季には疎
 となる。酷く乾燥した地に生育するものは、二三日の間完全に落葉する。稍陰地性樹木であり、種々
 な二羽柿科林中に存在するが、乾季の明白なる地方のラウアン・アビトン林中に最もよく生育する。
 樹皮は厚さ一種五糎乃至二種五糎、稚樹の樹皮は黄色で平滑だが、年経れば暗褐色となつて、斷續



(挿圖五十) Palosapis (*Anisoptera thurifera*)

右中央は果實

的龜裂を生じ、特に根本に於て著しい。表皮の直下は赤褐色、韌皮は褐黄色で、斷片的な黄色の放射組織のある爲粒状をなして居る。

葉は長さ七種五種乃至十六種、巾三種乃至七種、黄色を帯び小毛はない。

邊材は淡クリーム色、古びれば濁灰色となり、心材は淡黄色でばら色の條がある。古びれば一樣に黄褐色となり、木理は粗糙、類通直で、軟質又は堅重中庸。伐採直後は惡臭を發し、樹脂を多量に分泌する。

用途、一般建築物、家屋建築(梁、桷、床、側面)、獨木舟、箱、米臼、家具、樹。

分布、ルソン島(カガヤン、イロコス・ノルテ、イロコス・スル、アブラ、ヌエバ・ピスカヤ、パンガシナン、タルラック、ヌエバ・エシハ、サンパレス、バタアン、リサール、ラグナ、カマリネス、ソルソゴン、アルバイ)、マニラ、スバテ群島、ミンドロ島、セブ島。

學名、アニソプテラ・ツリフェラ (*Anisoptera thurifera*)

地方名、ダガン(Dagang) 或はダグム(Dagum) (ラグナ州、リサール州、アルバイ州)、デュヨン(Duyong) (イロカノ語)、レチス(Ietis) (マニラ島)、マヤピス(Mayapis) (タガログ語)、パイハピ(Paihapi) (サンパレス州)。

アニソプテラ屬の樹種はこの他にも數種あり、それ等の材は市場では一樣にパロサピスと稱せられ

て居る。
 マラバホ (Malapaho) 又はダガン (Dagang) (*Anisoperu curtisi*) の葉は裏面が著しく黄色で、タヤバス、カマリネス、ラグナの諸州より産出する。
 『アン』(Afa)と稱するカガヤン州、イロコス・ノルテ州産のアニソプテラ属の不明樹種は、パロサビスに頗る酷似してゐるが、果實がより大きい。ミンダナオ島サンボアンガ地方にも、アニソプテラ属の不明樹種がある。

製本控		伺第		號
939	國	420	號	年 月 日
書名	比特安蘇林樹木の研究 (2)			
著者	研究資料 知ノノ			
受入	年	月	日	申
備考				

番地 所 郎 番地
會 所

(規格 A5 東東 3,195)

て居る。
マラバホ (Malapaho) 又はダガン (Dagang) (*Anisopern curtisii*) の葉は裏面が著しく黄色で、
タバス、カマリネス、ラグナの諸州より産出する。
『アフ』(Afu)と稱するカガヤン州、イロコス・ノルテ州産のアニソプラ属の不明樹種は、パロサ
ビスに頗る酷似してゐるが、果實がより大きい。ミンダオ島サンボアンガ地方にも、アニソプラ属
の不明樹種がある。

昭和十八年五月十日 印刷
昭和十八年五月十五日 發行

【非賣品】

不許
複製

著作發行
兼印刷者 竹 井 十 郎
東京市京橋區木挽町三丁目十一番地

印刷所 東京市神田區旅籠町二ノ二
廣 業 館 印 刷 所

發行所 東京市京橋區木挽町三丁目十一番地
南 方 園 研 究 會

(規格 A5 東東 3,195)

933
E
420

650.22
N48



終